



MDLP

FH-P710MD

MD/CD/ チューナー・WMA/MP3/AAC/WAV 対応・DSP メインユニット

取扱説明書

目次 4 ページ

carrozeria

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- 表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

 **警告**

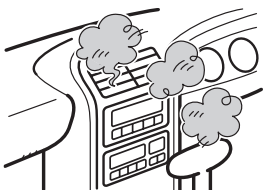
[異常時の処置]

故障のまま使用しない



画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

必ずお読みください

目次

CONTENTS

必ずお読みください

安全のために必ずお読みください…… 2

- 絵表示について
- 安全上のご注意

ご使用になる前に

この取扱説明書のみかた ……………	10
各部の名前 ……………	12
ボタン操作の基本 ……………	14
本機の特長 ……………	15
バッテリー上がりを防ぐために ……	18
デモ画面について ……………	18
本機のリセット ……………	19
リモコンの準備 ……………	19

ここだけ読めばすぐ使えます

基本的な操作 …………… 22

- 電源を入れる／切る
- ソース切り換え
- 音量調節
- フロントパネルの角度調節

CD、WMA／MP3／AAC／WAV、MD再生のふだんの操作 …………… 24

- ディスクを再生する
- フォルダーを選ぶ
(WMA／MP3／AAC／WAV)
- グループを選ぶ (MD)
- 曲を選ぶ
- 早送り／早戻しをする
- ディスクを取り出す

マルチCDのふだんの操作 …………… 26

- ディスクを再生する
- ディスクを選ぶ
- 曲を選ぶ
- 早送り／早戻しをする

ラジオのふだんの操作 …………… 28

- バンドを選ぶ
- 放送局を選ぶ

CD、WMA／MP3／AAC／WAV、MD、マルチCDの便利な機能

▶ FLANC で機能を切り換える ……………	32
繰り返し再生する ……………	33
違う曲順で再生する ……………	34
聞きたい曲やフォルダーなどをさがす ……	35
再生を一時停止する ……………	36
ディスク再生時の音質を調節する ……	36
10曲飛びに選曲する ……………	37
聞きたい曲を登録する ……………	38
登録した曲だけ再生する ……………	39
曲の登録を1曲ずつ解除する ……………	39
曲の登録をCDごとに解除する ……	40
CDのタイトルを入力する ……………	40

ラジオの便利な機能

複数の放送局を自動で登録する ……	44
放送局を1局ずつ登録する ……………	44
登録した放送局を受信する ……………	45
放送局の名前を変更する ……………	46

再生環境に適した音と音場・音質の調整のために

サブウーファー設定の順序 ……………	48
本機と「DEQ-P9」の 音と音場・音質の調節機能 ……	50
音と音場・音質の効果的な調節の順序 ……	51

音の調節

- AUDIBLE** で機能を切り換える …… 54
- 前後左右の音量バランスを調節する … 54
- 低音・高音の不足感を補う …… 55
- サブウーファ어의
ON/OFFと位相切り換え …… 55
- サブウーファ어의
カットオフ周波数とレベル調節 … 56
- サブウーファ어의スロープ切り換え … 57
- ハイパスフィルターのスロープ切り換え … 57
- ハイパスフィルターの
カットオフ周波数とレベル調節 …… 58
- ハイパスフィルターの効果を確認する … 59
- 各ソースの音量をそろえる …… 59
- 音響特性を最適に自動補正する前に … 60
- 音響特性を最適に自動補正する …… 61

音場・音質の調節

- DSP** (DSP)で機能を切り換える …… 64
- 音質を手軽に調節する …… 65
- イコライザーカーブに
簡単な補正を加える …… 66
- イコライザーカーブを細かく調節する … 67
- 音場の中心で聞く …… 68
- タイムアライメントを選ぶ …… 68
- タイムアライメントを調節する …… 69
- オート TA&EQ 設定をON/OFFする … 70
- イメージに合った演奏会場を再現する … 71
- 騒音に合わせて
音量と音質を自動で補正する …… 72

ここだけ読めば
すぐ使えます

必ずお読みください

目次

ご使用になる前に

CD、WMA / MP3 / AAC / WAV /
MD、マルチCDの便利な機能

ラジオの便利な機能

再生環境に適した音と音場・
音質の調節のために

音の調節

音場・音質の調節

別売DSPの音の調節

別売DSPの音場・音質の調節

便利な機能

初期設定

付録

別売DSPの音の調節

- **AUDIO** で機能を切り換える …………… 74
- 前後左右の音量バランスを調節する …… 74
- 各スピーカーの有無やサイズを設定する …………… 75
- スピーカーどうしの音のつながりを調節する …………… 76
- スピーカーの出力レベルを微調整する… 77
- テストトーンでスピーカーの出力レベルを調整する …………… 78
- タイムアライメントを選ぶ …………… 79
- タイムアライメントを調節する …… 80
- センターなしで5.1chのサラウンド感を再現する …………… 81
- 小さな音を聞きやすくする …………… 81
- オリジナルの音質で聞く …………… 82
- 各ソースの音量をそろえる …………… 82
- 音響特性を最適に自動補正する前に… 83
- 音響特性を最適に自動補正する …… 84

別売DSPの音場・音質の調節

- (DSP) で機能を切り換える …… 88
- 音質を手軽に調節する …………… 89
- 3バンドパラメトリックイコライザーを細かく調節する …………… 90
- 音場の中心で聞く …………… 92
- ドルビープロロジック II を使う …… 93
- ドルビープロロジック II を調節する (Music) …………… 94
- イメージに合った演奏会場を再現する… 95
- オート TA&EQ 設定をON/OFFする …… 96

便利な機能

- 聞きたい曲を直接選ぶ …………… 98
- 聞きたいCDを直接選ぶ …………… 98
- 聞きたい曲や放送局を名前のリストからさがす …………… 99
- ふだんの再生画面の表示を切り換える …………… 100
- 隠れている文字を表示する …………… 102
- 瞬時に音量を小さくする …………… 102
- 時計を表示する …………… 103
- 交通情報を受信する …………… 103
- よく使う機能を直接操作する …… 104
- エンタテインメントディスプレイを切り換える …… 104
- IP-BUS対応製品を接続する …… 105
- 外部機器に合わせてデジタル接続に切り換える …… 106

初期設定

- 初期設定を切り換える …………… 108
- 時計を合わせる …………… 109
- 外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする …………… 110
- 夜間の画面の明るさを切り換える …… 111
- ディスプレイの明るさを調整する …… 111
- RCA端子から出力される信号を選ぶ… 112
- 音の歪みを補正する …………… 112
- ミュート時の音量を設定する …… 113
- フィーチャーデモをON/OFFする… 113
- リバースモードをON/OFFする …… 114
- タイトルなどのスクロール方法を切り換える …………… 114
- オーディオ設定をリセットする …… 115

付録

CDの正しい使いかた	118
MDの正しい使いかた	120
WMA/MP3/AAC/ WAVファイルについて	122
故障かな?と思ったら	126
こんなメッセージが表示されたら	128
保証書とアフターサービス	130
用語解説	131
おもな仕様	133

ここだけ読めば
すぐ使えます

必ずお読みください

目次

ご使用になる前に

CD、WMA/MP3/AAC/WAV/
MD、マルチCDの便利な機能

ラジオの便利な機能

再生環境に適した音と音場・
音質の調節のために

音の調節

音場・音質の調節

別売DSPの音の調節

別売DSPの音場・音質の調節

便利な機能

初期設定

付録

ご使用になる前に

本機を操作する前に、知っておいてほしいことなどについて説明しています。

この取扱説明書のみかた	10
●章の切り分け	10
●ページ内の構成	11
各部の名前	12
●本体（クローズ時）	12
●本体（オープン時）	12
●リモコン	13
ボタン操作の基本	14
●ふだんよく使う機能の操作のしかた	14
●便利な機能の操作のしかた	14
本機の特長	15
バッテリー上がりを防ぐために	18
デモ画面について	18
本機のリセット	19
リモコンの準備	19

この取扱説明書のみかた

章の切り分け

この取扱説明書では、ふだんよく使う機能と便利な機能で章を分けて説明しています。ふだんよく使う機能は、特別な設定をすることなく使用できます。便利な機能を使うには、設定が必要です。

ふだんよく使う機能については「ここだけ読めばすぐ使えます」の章で、便利な機能についてはそのあとの「CD、WMA/MP3/AAC/WAV、MD、マルチCDの便利な機能」や「ラジオの便利な機能」、「内蔵DSPで音を調節する」などの章で説明しています。

お買い上げ後すぐに音楽やラジオを聞きたいときは、「ここだけ読めばすぐ使えます」をお読みください。操作の流れが、ひとつとおりがわかります。

章のタイトル	こんなときに読んでください
ご使用になる前に	この章です。本機を使う前にお読みください。本機を操作する前に、知っておいてほしいことなどについて説明しています。
ここだけ読めばすぐ使えます	本機をすぐに使いたいときや、ふだんの操作をひとつお知りになりたいときにお読みください。 ふだん、CD、WMA/MP3/AAC/WAV、MD、マルチCD、ラジオを聞くときによく使う機能を説明しています。
CD、WMA/MP3/AAC/WAV、MD、マルチCDの便利な機能	ディスク再生の設定などを変えたいときにお読みください。CD、WMA/MP3/AAC/WAV、MD、マルチCDの設定について説明しています。
ラジオの便利な機能	ラジオの設定などを変えたいときにお読みください。 ラジオの設定について説明しています。
再生環境に適した音と音場・音質の調節のために 音の調節	音を調節したいときは、まずこの章をお読みください。 音の調節の流れを再生環境ごとに説明しています。
音場・音質の調節	「再生環境に適した音と音場・音質の調節のために」で調節の流れを理解したあとに、必要な章をお読みください。音の調節方法を具体的に説明しています。
別売DSPの音の調節	
別売DSPの音場・音質の調節	
便利な機能	便利な機能について知りたいときにお読みください。「CD、WMA/MP3/AAC/WAV、MD、マルチCDの便利な機能」や「ラジオの便利な機能」以外の、便利な機能などについて説明しています。
初期設定	本機の基本的な設定について知りたいときにお読みください。時計の合わせ方や画面の明るさの調節などについて説明しています。
付録	本機が思ったように動作しないなど、操作で困ったときにお読みください。CDの取り扱い方や本機が正常に動作しないときの対処方法について説明しています。

それぞれの章で説明している内容は、章の扉の目次から探すことができます。

ページ内の構成

知りたい機能や操作の説明を探しやすいように構成されています。次の例は、便利な機能のページです。

マークが付いたソースだけで操作できることを示しています。

: CD

: WMA / MP3 / AAC / WAVファイルが記録されたCD-R / CD-RW / CD-ROM

: MD

: 本機と組み合わせた別売のマルチCDプレーヤー

10曲飛びに選曲する

SEARCH MODE

10曲以上収録されているディスクまたはフォルダーの場合、10曲飛びに選曲できます。

1 を押す

SEARCH MODE を選びます ()
32ページ)。

2 を押す

ラフサーチ設定がRoughに切り換わります。

ラフサーチ設定 : Rough

を押すと、早送り / 早戻し ()
24ページ) をするFF/REVに切り換わります。

3 を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

4 または を長く押す

10曲ごとに選曲できます。
10曲前を選ぶとき :
10曲先を選ぶとき :

ご注意
曲数が10以下のディスクでラフサーチをすると、最初または最後の曲が選択されます。残りの曲数が10以下のときにラフサーチをした場合も同様です。

CD、WMA / MP3 / AAC / WAV、MD、マルチCDの便利な機能

37

操作するときに、画面に表示される機能名です。ただし、機能名をこのスタイルで表しているのはタイトルの右下と操作の手順の説明だけです。

説明がわからないときに、該当ページの内容をお読みください。

順序ごとに操作を説明しています。

- ・ 操作の結果
- ・ 操作によってすることを説明しています。
- ・ 操作の詳細
- ・ 機能の詳細
- ・ 設定の取り消し方などについて説明しています。

操作に使うボタンです。本機でのボタンの位置がわからないときは、「各部の名前」()
12ページ) をご覧ください。

操作や機能に関連する補足です。マークは、内容の違いによって3種類あります。

: 操作するときの注意 / 本機の性能の維持に必要な注意 / 安全のために必ず守っていただきたい内容

: 本機を使用するうえで、知っている役に立つ機能や用語

: 操作のヒントや便利な使い方など

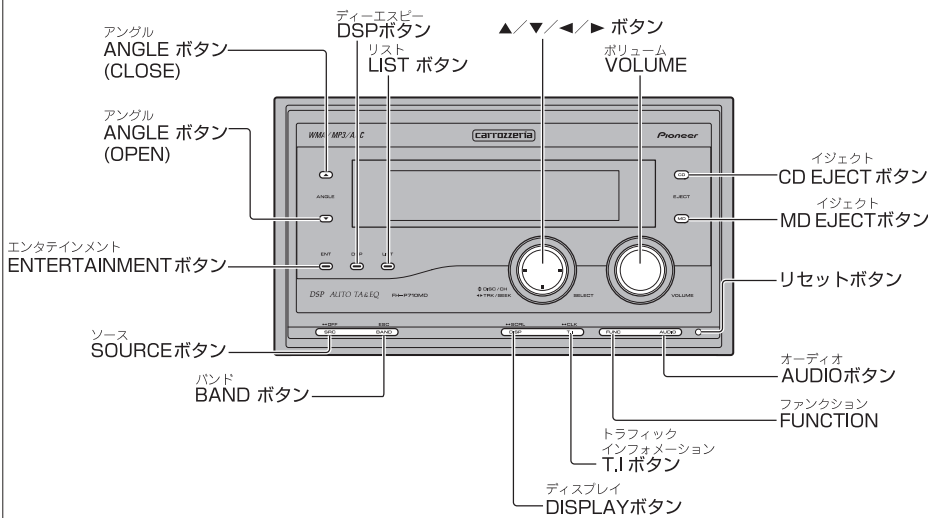


ソースとは

を押すと切り換わる、内蔵CDやラジオなどの音源のことです (22ページ)。

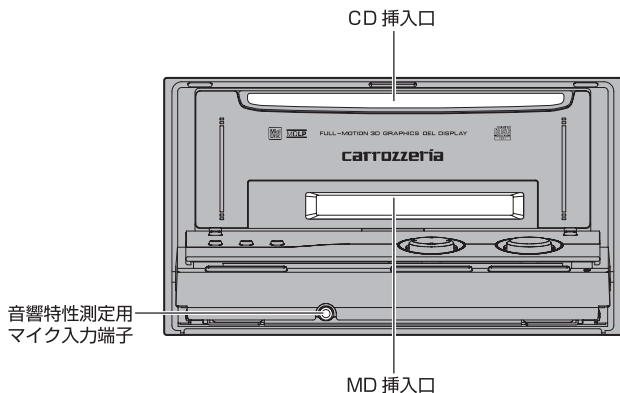
各部の名前

本体（クローズ時）



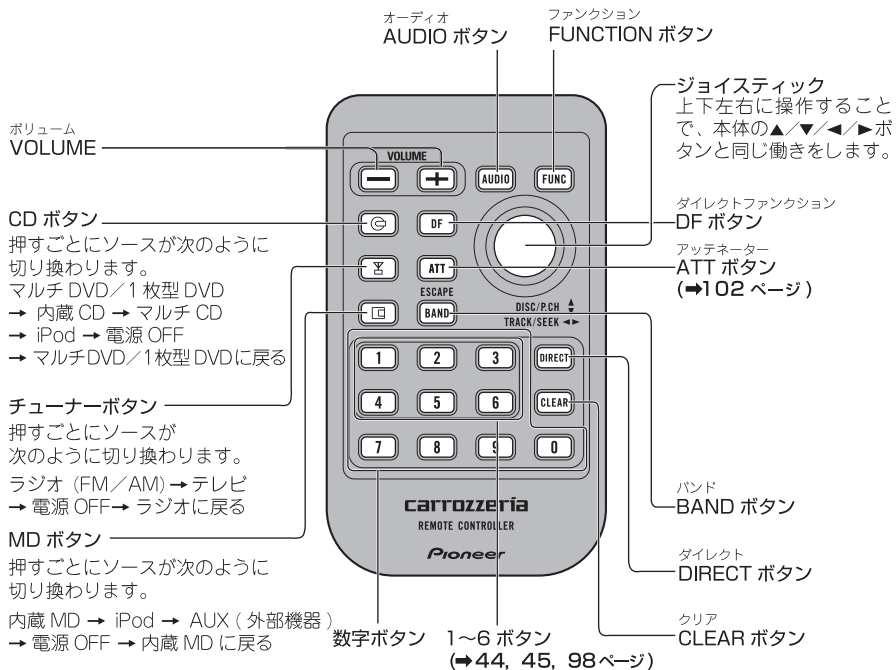
ご使用になる前に

本体（オープン時）



リモコン

本体とリモコンで名前が同じボタンは、同じ働きをします。



ソースとは

◀SOURCE▶ を押すと切り換わる、内蔵CDやラジオなどの音源のことです (⇒ 22 ページ)。

ボタン操作の基本

本機を使うときに、基本になるボタンの操作についての説明です。

ふだんよく使う機能の操作のしかた

FUNC / ▲ / ▼ / ◀ / ▶ で操作します (⇒22、24、26、28ページ)。

便利な機能の操作のしかた

FUNC (⇒32、44ページ) / **AUDIO** (⇒54、74ページ) / **DSP** (⇒64、88ページ) で機能を切り換えます。機能の設定は、▲ / ▼ / ◀ / ▶ で行います。

これらの機能の操作中は、ガイド(サイバーサイン)が画面の右側に表示されます。サイバーサインは操作に使うボタンを示しています。操作がわからないとき、参考にしてください。

ご使用になる前に



サイバーサイン の表示の例

	内 容
	FUNC で機能が切り換わる
	AUDIO で機能が切り換わる
	DSP (DSP) で機能が切り換わる
	▲ / ▼ / ◀ / ▶ で 設定が選べる
	◀ / ▶ で設定が選べる
	▲ / ▼ で設定が ON/OFFできる

このほか、**LIST** (⇒99ページ) や **ENTERTAINMENT** (⇒104ページ) など専用のボタンで直接呼び出す機能もあります。

本機の特長

本機は、数々の高音質機能を搭載した、MD/CD/チューナー・WMA/MP3/AAC/WAV対応 DSPメインユニットです。オート TA&EQ 設定とDSPによって、車室内を最適な音響空間にします。

操作性に優れたデザインを採用しているため、CDやMD、ラジオといった通常の機能だけでなく、さまざまな機能を簡単に操作できます。

また、優れた視認性とインターフェースを提供するOELディスプレイにより、「CD TEXT」をはじめとする文字表示を実現しています。

本機に搭載されたIP-BUS (⇒105ページ) により、マルチCDなどのさまざまな機器を接続し、コントロールできます。

さらに、DSPユニット「DEQ-P9」(別売)とパイオニア製DVDプレーヤー(別売)を組み合わせることで、5.1ch マルチチャンネルシステムを手軽に構築できます。「DEQ-P9」はドルビープロロジックIIに対応しています。

DSPとは

DSPは、Digital Signal Processorの略です。DSPを使うことで、細かな音の調節が可能になります。

WMA/MP3/AAC/WAVの再生について

WMA/MP3/AAC/WAVファイルが記録されたCD-R/CD-RW/CD-ROMの再生に対応しています。ISO9660のレベル1/レベル2/拡張フォーマット(Joliet, Romeo)に準拠して記録されたディスクが再生可能です (⇒131ページ)。

WMAについて

外装箱に印刷された、Windows Media™のロゴは、本機がWMAデータの再生に対応していることを示しています。

WMAはWindows Media Audioの略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、バージョン7以降のWindows Media Playerを使用してエンコードできます。



Microsoft、Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

📌 ご注意

- WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMAファイルをエンコードしたWindows Media Playerのバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 本機で画像データを含むWMAファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

MP3について

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。詳細は、インターネット上のホームページ <http://www.mp3licensing.com> をご覧ください。

- 営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送（地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア）、インターネットを使った放送やデータ転送、イントラネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子的放送番組の配布システムなど。

AACについて

AACはAdvanced Audio Codingの略で、MPEG-2/MPEG-4で 사용되는音声圧縮技術に関する基本フォーマットです。

AACデータは、作成に使用したアプリケーションによって異なります。本機は、バージョン4.1.1.54以降のiTunesを使用してエンコードされたAACファイルの再生に対応しています。

また、iTunesで作成された拡張子(.m4a)が付いているファイルをAACファイルとして再生します。故障の原因になりますので、.m4a以外の拡張子の付いたAACファイルを再生しないでください。

iTunesは、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標です。

「CD TEXT」について

「CD TEXT」は、CDのタイトル／歌手名／曲名などの文字情報が収録されたCDです。

「CD TEXT」には基本的に、ディスクタイトル面に次のマークが付いています。ただし、次のマークが付いていない「CD TEXT」もあります。



タイトル表示できる文字の種類

本機は、カタカナやアルファベットだけではなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。「CD TEXT」に漢字などの文字情報が収録されている場合でも、そのまま表示できます。

長時間録音されたMDの再生について

本機は、長時間録音されたMD (MDLP) の再生に対応しています。



MDLPとは

MDLPは、Mini Disc Long-Play modeの略です。データの圧縮率を高め、記録可能な時間を2倍または4倍に拡張する方式です。



ご注意

- AACファイルをエンコードしたiTunesのバージョンによっては、正しく再生されないことがあります。
- CD-R/CD-RWにAACファイルを書き込むときに使用したiTunesのバージョンによっては、ファイル名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 画像データを含むAACファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- iTunes Music Storeで購入したAAC形式の曲（拡張子.m4p）は、CD-RやCD-RWに記録して再生することはできません。

MDグループディスクの再生について

MDに収録されている曲を「グループ」として登録したディスクを、「MDグループディスク」と呼びます。本機は、MDグループディスクの再生に対応しています。MDグループディスクを再生している場合、グループ名を表示したり、好みのグループだけを再生したりできます。

50枚型マルチCDプレーヤーで使える機能

本機には、50枚型マルチCDプレーヤーを接続できます。ただし、50枚型マルチCDプレーヤーに特有の機能は操作できません。本機で操作できるのは、この取扱説明書で説明している機能だけです。また、本機が対応していても、50枚型マルチCDではタイトルリスト（⇒99ページ）には切り換わりません。

ドルビープロロジックⅡについて

当社の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を組み合わせると、ドルビープロロジックⅡの機能を使用できます。ドルビープロロジックⅡは、2チャンネルのステレオ音声を5.1チャンネルに拡張し、臨場感豊かに再現する機能です。



Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラポラトリーズの商標です。

この製品はBBEサウンド・インコーポレーテッドからの実施権に基づき製造されています。この製品は米国BBE社の所有する特許USP4638258と4482866を使用しています。BBEとBBEのシンボルは、BBE Sound, Inc.の登録商標です。

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。
また、本機の電源がOFFのときでも、車のエンジンを止めた状態で長時間、車のエンジンスイッチをON（またはACC）にしないでください。バッテリー上がり
の原因になります。



ご注意

- 車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。本機が初期状態に戻ると、本機の設定内容（時計やラジオのプリセット、オーディオ調節など）が消去されます。もう一度設定してください。
- オーディオ調節の設定内容などは、メモしておくことをお勧めします。再設定の方法については、それぞれのページを参照してください。

デモ画面について

本機には、リバースモードとフィーチャーデモの2種類のデモ画面があります。

リバースモードについて

リバースモードは、画面が自動的に反転する機能です。各ソースを聞いているときに約30秒間操作しないと反転が始まります。反転の間隔は、10秒です。

リバースモードを解除したいときは、車のイグニッションスイッチがON（またはACC）のときに本機の電源をOFFにして **BAND** を押してください。もう一度押すと、ONになります。

フィーチャーデモについて

フィーチャーデモは、各ソースや本機の機能の画面を表示して紹介する機能です。本機が電源OFFのときに表示されます。

フィーチャーデモを解除したいときは、フィーチャーデモの表示中に **ENTERTAINMENT** を押してください。もう一度押すと、デモが始まります。



ご注意

- 車のエンジンを止めた状態でフィーチャーデモを長時間表示すると、バッテリー上がりの原因になります。
- 赤リード線（アクセサリ電源）は、車のバッテリーから常に電源が供給される電源回路には接続しないでください。車のイグニッションスイッチと本機の電源をOFFにしても、デモ画面が表示されてバッテリー上がりの原因になります。

本機のリセット

リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期状態（ご購入直後の状態）に戻ります。

リセットが必要なとき

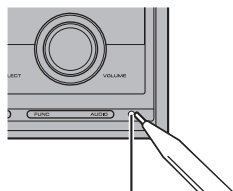
- リセットが必要なのは、次のときです。
 - ・ 接続が終わったあと
 - ・ 本機が正しく動作しないとき
 - ・ ディスプレイが正しく表示されないとき

ご注意

- リセットボタンを押すと、本機の設定内容（時計やラジオのプリセット、オーディオ調節など）が消去されます。もう一度、設定してください。

1 ペン先などでリセットボタンを押す

本機がリセットされます。



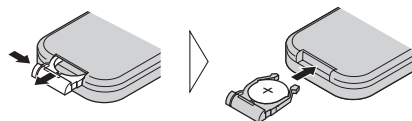
リセットボタン

リモコンの準備

付属のリモコンを使うための準備です。

1 リモコンに電池を入れる

リモコンを裏返し、電池ホルダーを取り出して、リチウム電池（CR2025）を⊕側を上にしてセットします。初めて使うときは、電池ホルダー一部から出ているフィルムを引き抜いてください。電池があらかじめセットされているので、すぐに使えます。



リモコンで操作できる範囲が狭くなったときは、電池を新しいものと交換してください。

リモコンの取り扱い上のご注意

- リモコンを直射日光の当たるところに長い時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障したりする恐れがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本体に直射日光が当たっていると、リモコンで操作できないことがあります。このような場合は、リモコンを本体に近づけて操作してください。
- 付属の電池は充電できません。
- リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。取り出した電池は、幼児の手が届かないところに保管してください。
- 電池が液もれしたときは、リモコンの内部に付いた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。
- 不要になった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。

ご使用になる前に

ここだけ読めば すぐ使えます

ふだんよく使う機能には、特別な設定は必要ありません。この章の説明を読めば、ふだんよく使う機能の使い方がわかります。

基本的な操作	22
●電源を入れる／切る	22
●ソース切り換え	22
●音量調節	22
●フロントパネルの角度調節	22
CD、WMA / MP3 / AAC /	
WAV、MD再生のふだんの操作	24
●ディスクを再生する	24
●フォルダーを選ぶ (WMA / MP3 / AAC / WAV)	24
●グループを選ぶ (MD)	24
●曲を選ぶ	24
●早送り／早戻しをする	24
●ディスクを取り出す	24
マルチCDのふだんの操作	26
●ディスクを再生する	26
●ディスクを選ぶ	26
●曲を選ぶ	26
●早送り／早戻しをする	26
ラジオのふだんの操作	28
●バンドを選ぶ	28
●放送局を選ぶ	28

基本的な操作

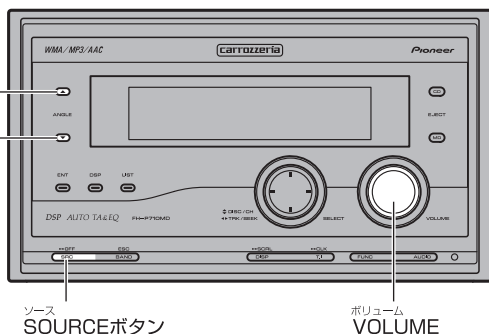
ここでは、電源を入れてから切るまでの本機の基本的な操作を説明しています。使うボタンは、**SRC** / **VOLUME** / **◀** / **▶** の4つです。

ここだけ読めばすぐ使えます

この操作で使うボタン

アングル
ANGLEボタン
(OPEN)

アングル
ANGLEボタン
(CLOSE)



1

SRC を押す

本機の電源がONになります。

2

SRC を押す

ボタンを押すごとに、ソースが次の順序で切り換わります。



ソースとは

● **SRC** を押すと切り換わる、内蔵CDやラジオなどの音源のことです。



エクスターナルとは

● 本機には、エクスターナルという特殊なソースがあります。このソースには、本機がソースとして対応していない製品（将来発売されるパイオニア製品など）を接続できます。ただしエクスターナルでは、操作できる機能が限られる場合があります。

本機には、2台のエクスターナル製品を接続できます。この場合、エクスターナル1とエクスターナル2が自動で設定されます。

3

VOLUMEを押してから回す

音量を調節します。

大きくするとき：右回し

小さくするとき：左回し

約4秒間、音量の値が画面に表示されます。

VOLUMEは、もう一度押すともとに戻ります。

4

◀ または **▶** を押す

フロントパネルの角度を調節します。

傾けるとき：◀

立ち上げるとき：▶

完全に開けるとき：◀を長く

完全に閉めるとき：▶を長く

- ▶ 電源を入れる／切る ▶ ソース切り替え
- ▶ 音量調節 ▶ フロントパネルの角度調節

5

SRC を長く押す

本機の電源がOFFになります。



注意



手を挟まれないよう注意

- フロントパネルの開閉動作中は、指などを挟まないようご注意ください。



知っている则便利

- 音量の調節範囲は0～40です。
- フロントパネルの角度は、12段階に調節できます。



ご注意

- 角度の調節は、手動で行わないでください。フロントパネルに強い力が加わると、故障することがあります。
- ACC電源をOFFにすると、約6秒後にフロントパネルが閉まります。もう一度ONにすると、元の位置に戻ります。ただし、安全のため、完全に開いた位置には戻りません。
- フロントパネルが開閉の動作をしているときは、指などを挟まないようご注意ください。
- フロントパネルを開けたまま、走行しないでください。急ブレーキ時に体がフロントパネルに当たったりして、思わぬケガをする恐れがあります。
- 接続していないソースには切り換わりません。
- CDやMDがセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。
- 本機の青リード線（オートアンテナ）に車側のオートアンテナのコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナが伸びます。
- AVソースとして設定できる製品（「AVX-P7」など）を本機に接続した場合、AVソースに切り換えることができます。
- iPod（別売）を接続するには、iPodアダプター「CD-IB10II」（別売）が必要です。
iPodは、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標です。
- AUXソースに切り換えるには、AUX（外部機器設定）（➡110ページ）をあらかじめONにしておきます。

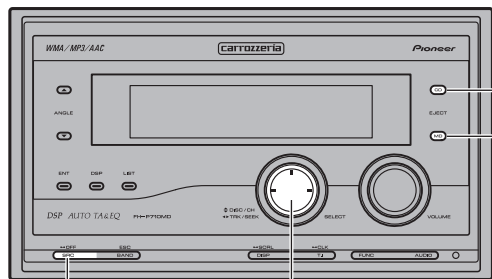
ここだけ読めばすぐ使えます

CD、WMA／MP3／AAC／WAV、 MD再生のふだんの操作

ここだけの操作で、CD、WMA／MP3／AAC／WAV、MDを再生できます。
使うボタンは、**CD** / **MD** / **SRC** / **▲** / **▼** / **◀** / **▶** の7つです。

ここだけ読めばすぐ使えます

この操作で使うボタン



ソース
SOURCEボタン

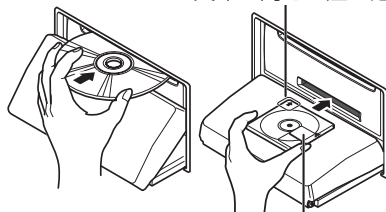
▲/▼/◀/▶ボタン

イジェクト
CD EJECTボタン
イジェクト
MD EJECTボタン

1 **CD** または **MD** を押して、 ディスクを挿入口に差し込む

フロントパネルが開いてから、ディスクを挿入口に差し込みます。ディスクが自動で収納されたあとフロントパネルが閉まり、再生が始まります。

矢印の向きに差し込みます



シャッター

2 **▲** または **▼** を押す

WMA／MP3／AAC／WAVの場合はフォルダーが、MD（グループディスク）の場合はグループが選べます。
次のフォルダー／グループを選ぶ： **▲**
前のフォルダー／グループを選ぶ： **▼**

3 **◀** または **▶** を押す

聞きたい曲を選ぶとき
次の曲を選ぶ： **▶**
前の曲を選ぶ： **◀**

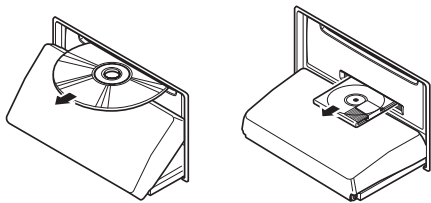
早送り／早戻しをするとき
早送り： **▶** を長く
早戻し： **◀** を長く

4 ほかのソースに切り換えるか、 電源をOFFにする

再生が終わります。

5 **CD** または **MD** を押す

フロントパネルが開き、ディスクが出てきます。



- ▶ ディスクを再生する ▶ フォルダーを選ぶ (WMA/MP3/AAC/WAV) ▶ グループを選ぶ (MD)
- ▶ 曲を選ぶ ▶ 早送り/早戻しをする ▶ ディスクを取り出す



6

Ⓜ または Ⓜ を押す

フロントパネルが閉まります。



ご注意

- ディスクはタイトル面を上にして差し込みます。
- MDのシャッターが閉まっていることを確認してから差し込んでください。
- MDは、必ずディスクに記載されている矢印の向きに差し込んでください。向きが違くと、取り出せなくなることがあります。
- それぞれの挿入口には、決められたディスク以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因になります。
- ディスクを挿入すると、本機はディスクからファイル形式などの情報を読み取ります。この間、画面にはFormat Read (CDの場合) またはToc Read (MDの場合) と表示されます。
- 選曲方法をラフサーチに設定した場合は、10曲飛びに選曲されます (⇒37ページ)。
- フロントパネルが開閉の動作をしているときは、指などを挟まないようにご注意ください。
- WMA/MP3/AAC/WAVファイルを早送り/早戻ししているときには、音声は出力されません。
- VBR (可変ビットレート) で録音されたWMA/MP3/AAC/WAVファイルを早送り/早戻しすると、再生経過時間が正しく表示されないことがあります。
- 2倍長時間録音のMD再生時は×2が、4倍長時間録音のMD再生時は×4が表示されます。
- 出てきたCD/MDはすぐに取り出して、保管してください。挿入口からディスクを出したまま走行すると危険です。
- ディスクを挿入口に差ししたままにしないでください。フロントパネルが閉められなくなります。
- 挿入口にゴミやホコリが入るのを防ぐため、フロントパネルを閉めてください。



知っていると便利

- WMA/MP3/AAC/WAVの場合、**BAND** を長く押し、フォルダー 01 (ROOT) に戻ります。ただし、フォルダー 01 (ROOT) にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。
- ディスクをセットしたまま、電源をOFFにしたりほかのソースに切り換えることができます (⇒22ページ)。
- WMA/MP3/AAC/WAVファイルと音楽データが混在しているディスクの場合、再生を切り換えることができます。切り換えるときは、**BAND** を押します。再生は一番先頭の曲から始まります。

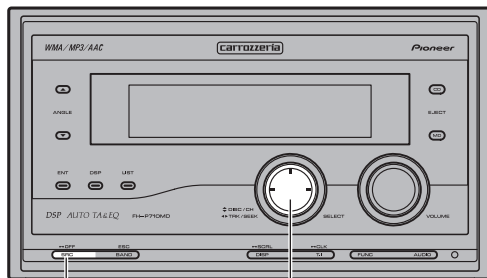
マルチCDのふだんの操作

ここだけの操作で、マルチCDを再生できます。
使うボタンは、**SRC** / ▲ / ▼ / ◀ / ▶ の5つです。

本機とマルチCDを組み合わせているときだけ操作できます。

ここだけ読めばすぐ使えます

この操作で使うボタン



ソース
SOURCEボタン

▲/▼/◀/▶ボタン

1

SRC を押す

マルチCDを選ぶと、再生が始まります。

2

▲ または ▼ を押す

次のCDを選ぶとき： ▲
前のCDを選ぶとき： ▼

3

◀ または ▶ を押す

聞きたい曲を選ぶとき
次の曲を選ぶ： ▶
前の曲を選ぶ： ◀

早送り／早戻しをするとき
早送り： ▶ を長く
早戻し： ◀ を長く

4

ほかのソースに切り換えるか、
電源をOFFにする

再生が終わります。

- ▶ ディスクを再生する
- ▶ ディスクを選ぶ ▶ 曲を選ぶ ▶ 早送り／早戻しをする



知っている则便利

- リモコンの **1** ～ **6** ボタンを押して、聞きたいCDにワンタッチで切り換えることができます。
1 ～ 6枚目のディスクを選びたいときは、**1** ～ **6** のボタンを押してください。
12枚型マルチCDプレーヤーを接続している場合に、7 ～ 12枚目のディスクを選びたいときは、**1** ～ **6** のボタンを長く押してください。



注意

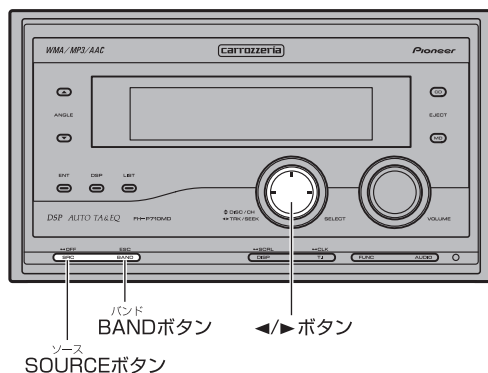
- マルチCDが準備動作（CDの有無の確認やCDの情報の読み込みなど）をしている場合があります。このとき、ソースをマルチCDに切り換えるとREADYと表示されます。
- マルチCDの再生中にマガジンをマルチCDから取り出すと、NoMagazineと表示されます。

ラジオのふだんの操作

ここだけの操作で、ラジオを聞くことができます。
使うボタンは、**SRC** / **BAND** / ◀ / ▶ の4つです。

ここだけ読めばすぐ使えます

この操作で使うボタン



1

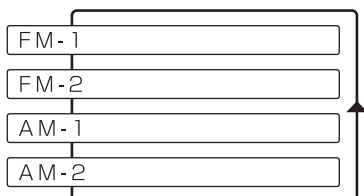
SRC を押す

ラジオを選びます。

2

BAND を押す

ボタンを押すごとに、バンドが次の順序で切り換わります。



3

◀ または ▶ を押す

放送局を手動で選ぶ（手動選局）とき
高い周波数の放送局を選ぶ： ▶
低い周波数の放送局を選ぶ： ◀

放送局を自動で選ぶ（自動選局）とき
高い周波数の放送局を自動で選ぶ
： ▶ を長く押し離す
低い周波数の放送局を自動で選ぶ
： ◀ を長く押し離す

4

ほかのソースに切り換えるか、
電源をOFFにする

ラジオの受信が終わります。



知っていると便利

- バンドごとに放送局を6局ずつ登録できます (⇒44ページ)。
- ◀または▶を押し続けている間、途中の放送局をとばすことができます。離れたところから自動選局を開始します。
- 電波の強い放送局を選局するには自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには手動選局をお勧めします (⇒28ページ)。

CD、WMA／MP3／AAC／WAV、 MD、マルチCDの便利な機能

ここでは、ディスク再生時の「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能について説明しています。これらは、**FUNC** で切り換えてから設定します。

FUNC で機能を切り換える……………	32
● FUNC を押して切り換える……………	32
● FUNC を長く押して切り換える……………	32
繰り返し再生する……………	33
違う曲順で再生する……………	34
聞きたい曲やフォルダーなどをさがす…	35
再生を一時停止する……………	36
ディスク再生時の音質を調節する……………	36
10曲飛びに選曲する……………	37
聞きたい曲を登録する……………	38
登録した曲だけ再生する……………	39
曲の登録を1曲ずつ解除する……………	39
曲の登録をCDごとに解除する……………	40
CDのタイトルを入力する……………	40

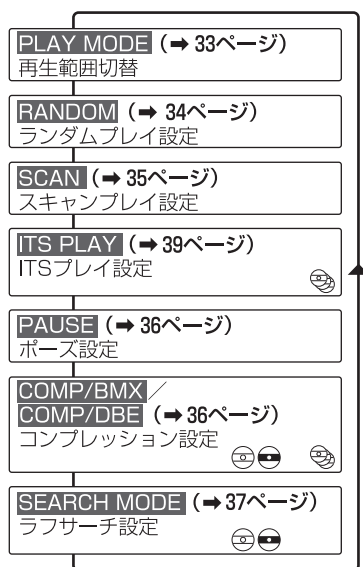
FUNC で機能を切り換える

FUNC を押して切り換わる機能は、CD、WMA/MP3/AAC/WAV、MD、マルチCDでほとんど同じです。ただし、MDにはCOMP/BMX/COMP/DBEとSEARCH MODEがなく、マルチCDだけにITS PLAYがある点が異なります。また、CDとマルチCDには、FUNC を長く押しして切り換える機能があります。

FUNC を押して切り換える

1 FUNC を押す

ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります。



知っているとも便利

- ふだんの再生画面に戻るには、BAND を押しします。また、約30秒間、何も操作しなかったときは自動で戻ります。

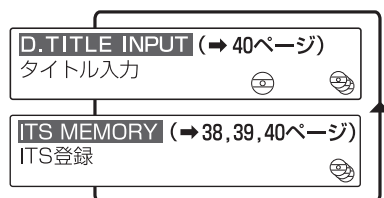
FUNC を長く押しして切り換える

1 FUNC を長く押す

D.TITLE INPUTが表示されます。

2 FUNC を押す

ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります。



知っているとも便利

- ふだんの再生画面に戻るには、BAND を押しします。

ご注意

- 「CD TEXT」に対応しているマルチCDプレーヤー（「CDX-P670」など）で「CD TEXT」を再生しているときは、D.TITLE INPUTには切り換わりません。「CD TEXT」にあらかじめ収録されているタイトルは、変更できないためです。

繰り返し再生する

PLAY MODE

曲を繰り返し（リピート）再生できます。繰り返しの範囲は、いま聞いている曲やディスク全体などから選べます。選べる範囲はディスクによって異なります。

ディスクごとの再生範囲の種類・設定

ディスク	再生範囲の種類・設定	リピートプレイの動作
CD	Disc	セットされているディスクを通して再生
	Track	再生中の曲を繰り返し再生
WMA/MP3/AAC/WAV	Disc	セットされているディスクを通して再生
	Track	再生中の曲を繰り返し再生
	Folder	再生中のフォルダーを繰り返し再生
MD	Disc	セットされているディスクを通して再生
	Track	再生中の曲を繰り返し再生
	Group	再生中のグループを繰り返し再生
マルチCD	MCD	マルチCDにセットされているすべてのディスクを通して再生
	Track	再生中の曲を繰り返し再生
	Disc	再生中のディスクを通して再生

1

[FUNC] を押す

PLAY MODE を選びます（➔32ページ）。

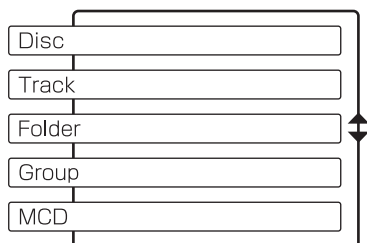
2

◀ または ▶ を押す

リピートプレイする範囲が選べます。



ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



3

[BAND] を押す

ふだんの再生画面に戻ります。



ご注意

- 再生範囲がFolderのときは、再生中のフォルダー内の曲（WMA/MP3/AAC/WAVファイル）だけが再生されます。サブフォルダー内の曲は再生されません。
- グループディスクを再生しているときだけ、再生範囲がGroupに切り換わります。

違う曲順で再生する

RANDOM

曲を順不同（ランダム）に再生できます。いつもと違う曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

1 ランダムプレイをする 範囲を選んでおく（→33ページ）

ランダムプレイは、**PLAY MODE**で選んだ範囲で行われます。

2 **FUNC** を押す

RANDOMを選びます（→32ページ）。

3 ▲ を押す

ランダムプレイ設定がONになります。次の曲（フォルダー／グループ／ディスク）から、ランダムに再生されます。



▼を押すと、OFFになります。

4 **BAND** を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

📌 ご注意

- 再生範囲がTrackのときにランダムプレイ設定をONにすると、再生範囲が次のように切り換わってランダムプレイが行われます。
 - ・ CD : Disc
 - ・ WMA/MP3/AAC/WAV : Folder
 - ・ MD : Group
 - ・ マルチCD : Disc

聞きたい曲やフォルダーなどをさがす

SCAN

曲やフォルダー、グループ、ディスクの始めの部分だけを、約10秒間ずつ次々に聞くことができます（スキャンプレイ）。聞きたい曲を探すときに便利です。スキャンプレイの種類は、再生範囲切替で設定できます。

スキャンプレイの種類と再生範囲切替の設定

ディスク	スキャンプレイの種類	スキャンプレイの動作	選択範囲切替で選ぶ設定
CD	トラックスキャン	ディスク内の全曲を、約10秒ずつ再生	—
WMA/MP3/ AAC/WAV	トラックスキャン	再生中のフォルダーの全曲を、約10秒ずつ再生	Folder
	フォルダースキャン	ディスク内の全フォルダーの1曲目だけを、約10秒ずつ再生	Disc
MD	グループ ディスク以外	ディスク内の全曲を、約10秒ずつ再生	Disc
	グループ ディスク	トラックスキャン 再生中のグループの全曲を、約10秒ずつ再生	Group
マルチCD	グループ ディスク	グループスキャン ディスク内の全グループの1曲目だけを、約10秒ずつ再生	Disc
	マルチCD	トラックスキャン ディスク内の全曲を、約10秒ずつ再生	Disc
		ディスクスキャン マルチCD内にある全CDの1曲目だけを、約10秒ずつ再生	MCD

1 スキャンプレイをする 範囲を選んでおく(→33ページ)

PLAY MODE で選んだ範囲でスキャンプレイします。



ご注意

- CDの場合、この操作は不要です。手順2から始めてください。

2 **FUNC** を押す

SCAN を選びます (→32ページ)。

3 ▲ を押す

スキャンプレイ設定がONになります。



曲の始めの約10秒間が次々に再生されます。スキャンプレイを始めて約30秒たつと、ふだんの再生画面に自動で戻ります。

4 聞きたい曲が再生されたら、 ▼ を押す

スキャンプレイ設定がOFFになります。



ご注意

- ふだんの再生画面に戻っていたら、まず手順2の操作でもう一度SCANを選びます。次に、▼を押してください。スキャンプレイ設定がOFFになります。

5 **BAND** を押す

ふだんの再生画面に戻ります。



ご注意

- スキャンプレイを始めた曲（フォルダー、グループ、ディスク）まで戻ると、スキャンプレイは解除されます。
- 再生範囲がTrackのときにスキャンプレイ設定をONにすると、再生範囲が次のように切り換わってスキャンプレイが行われます。
 - ・WMA/MP3/AAC/WAV : Folder
 - ・MD : Disc (Group)
 - ・マルチCD : Disc

再生を一時停止する

PAUSE

曲の再生を一時停止できます。

1

FUNC を押す

PAUSE を選びます (→32ページ)。

2

▲ を押す

再生が一時停止されます。



▼ を押すと、OFFになります。

3

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

ディスク再生時の音質を調節する



音質を調節する機能として、CDまたはWMA/MP3/AAC/WAV用にCOMPとBMXが、マルチCD用にCOMPとDBEがあります。COMPはクラシックなど音量差の大きい曲に、BMXは圧縮された音楽データに、DBEは低音域が不足していると感じる曲に効果的です。



COMPとは

COMPは、Compression (コンプレッション) の略です。大きな音と小さな音の音量差 (ダイナミックレンジ) を小さくします。



BMXとは

BMXは、Bit Matrix (ビットマトリックス) の略です。音楽の残響音を補正し、自然な広がりを持った音質に改善します。



DBEとは

DBEは、Dynamic Bass Emphasis (ダイナミックバスエンファシス) の略です。低音域を押し上げます。



マルチCDの場合のご注意

- マルチCDの場合、COMP/DBE機能がついた製品だけで操作できます。

1

FUNC を押す

COMP/BMX を選びます (→32ページ)。



ご注意

- COMP/DBE機能のないマルチCDを組み合わせたときは、No COMPと表示されて操作できません。

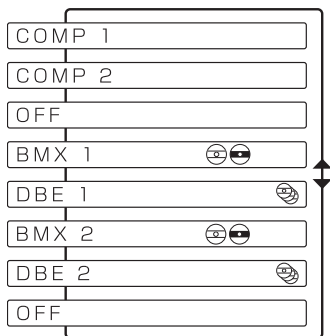
2

▲ または ▼ を押す

コンプレッション設定の種類が選べます。



ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



3

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

10曲飛びに選曲する



SEARCH MODE

10曲以上収録されているディスクまたはフォルダーの場合、10曲飛びに選曲できます。

1

FUNC を押す

SEARCH MODE を選びます (→ 32ページ)。

2

▶ を押す

ラフサーチ設定がRoughに切り換わります。



◀ を押すと、早送り/早戻し (→ 24ページ) をするFF/REVに切り換わります。

3

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

4

◀ または ▶ を長く押す

10曲ごとに選曲できます。

10曲前を選ぶとき： ◀

10曲先を選ぶとき： ▶



知っていると便利

- COMP/BMX/DBEの効果はいずれも、1より2のほうが大きくなります。
- 本機には、このほかにも音質などを細かく調節する機能があります (→47ページ)。



ご注意

- 曲数が10以下のディスクでラフサーチをすると、最初または最後の曲が選択されます。残りの曲数が10以下のときにラフサーチをした場合も同様です。

聞きたい曲を登録する

ITS MEMORY

ITSプレイ (➔39ページ) 機能を使うと、聞きたい曲だけを再生できます。ITSプレイをするためには、聞きたい曲をあらかじめ登録しておきます。



ITSとは

ITSは、Instant Track Selection (インスタントトラックセレクション) の略です。聞きたい曲を登録しておき、それを再生する機能です。

1

▲ または ▼ を押す

曲を登録したいCDを再生します (➔32ページ)。

6

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

2

FUNC を長く押す

D.TITLE INPUTが表示されます (➔32ページ)。

3

FUNC を押す

ITS MEMORYを選びます (➔32ページ)。

4

◀ または ▶ を押す

登録したい曲を選びます (➔26ページ)。

5

▲ を押す

選んだ曲が登録されます。



登録が完了すると、Memory complete が2秒間表示されます。



ご注意

- 曲の登録はCDごとに行われます。CDを入れ替えても、そのCDでの登録内容は消去されません。
- CD 1枚につき99曲まで登録できます。ただし、「CDX-P1250」および「CDX-P650」以前に発売されたマルチCDプレーヤーでは、登録できる曲は24曲までです。
- 登録できる内容は、ITSとタイトル入力 (➔40ページ) を合わせてCD 100枚ぶんです。100枚を超えたときは、いちばん古い登録の内容が消去されて、新しいCDが登録されます。

登録した曲だけ再生する



ITS PLAY

あらかじめ登録した(→38ページ)曲だけを再生できます。

1 ITSプレイをする範囲を選んでおく(→33ページ)

PLAY MODEで選んだ範囲でITSプレイをします。

2 **FUNC**を押す

ITS PLAYを選びます(→32ページ)。

3 ▲を押す

ITSプレイ設定がONになります。
ITS MEMORYで登録した曲だけが再生されます。



▼を押すと、OFFになります。

4 **BAND**を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

📌 ご注意

- 再生範囲がTrackのときにITSプレイ設定をONにすると、再生範囲はDiscに切り換わります。
- 手順1で選んだ再生範囲内に登録した曲がない場合は、ITS emptyが約2秒間表示されて、ITSプレイは行われません。

曲の登録を1曲ずつ解除する



ITS MEMORY

ITSプレイ用の曲の登録(→38ページ)を1曲ずつ解除できます。

1 ITSプレイ設定をONしておく

2 ◀または▶を押す

登録を解除したい曲を再生します(→26ページ)。

3 **FUNC**を長く押す

D.TITLE INPUTが表示されます(→32ページ)。

4 **FUNC**を押す

ITS MEMORYを選びます(→32ページ)。

5 ▼を押す

再生していた曲の登録が解除されて、次に登録されている曲が再生されます。



次に指定されている曲

6 **BAND**を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

📌 ご注意

- 現在の再生範囲に登録した曲がなくなった場合は、ITS emptyが2秒間表示されて、ITSプレイ設定はOFFになります。

曲の登録を CDごとに解除する



ITS MEMORY

ITSプレイ用の曲の登録 (→38ページ)
をCDごと解除できます。

1 ITSプレイ設定を
OFFにしておく (→39ページ)

2 ▲または▼を押す

登録を解除したい曲を再生します (→
26ページ)。

3 **FUNC** を長く押す

D. TITLE INPUTが表示されます (→
32ページ)。

4 **FUNC** を押す

ITS MEMORYを選びます (→32
ページ)。

5 ▼を押す

再生していたCDの曲の登録が解除さ
れます。



登録の解除が完了すると、Memory
deletedが2秒間表示されます。

6 **BAND** を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

CDのタイトルを 入力する



CDのタイトルを入力して本機に登録で
きます。登録したタイトルは画面に表示
できます。

! マルチCDの場合のご注意

- タイトル入力機能がないマルチCDを組み合
わせたときは、操作できません。

1 タイトル入力したいCDを
再生する (→24、26ページ)

2 **FUNC** を長く押す

D. TITLE INPUTに切り換わります
(→32ページ)。



ご注意

- マルチCDでITS MEMORYが表示されたと
きは、**FUNC**をもう一度押すと切り換わります。
- 「CD TEXT」に対応しているマルチCD
(例：「CDX-P670」)で「CD TEXT」を再
生しているときは、切り換わりません。「CD
TEXT」に収録されているCDタイトルは変更
できないためです。

3 ▲ / ▼ / ◀ / ▶ を押す

入力する位置を選ぶ

右に移動するとき：▶

左に移動するとき：◀



入力する位置でカーソルが点滅し
ます。

文字を選ぶ

次の文字を選ぶとき：▲

前の文字を選ぶとき：▼



選んだ文字が点滅します。

5

▶ を押す

入力したタイトルが登録されます。



6

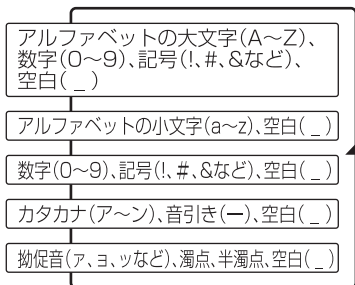
BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。



知っている则便利

- **DISP** を押すと、入力する文字の種類を変更できます。ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



- タイトルを入力しているとき（文字が点滅しているとき）に **BAND** を押すと、ふだんの再生画面に戻ります。入力中のタイトルは登録されません。

4

▶ を押す

10文字目を点滅させます。



ご注意

- タイトルの登録はCDごとに行われます。CDを取り出しても、そのCDでの登録内容は消去されません。
- タイトルは、10文字まで入力できます。
- 内蔵CDのタイトルは、48枚ぶん登録できます。48枚を超えたときは、いちばん古いCDのタイトルが消去されて、新しいCDのタイトルが登録されます。
- マルチCDを組み合わせた場合に登録できる内容は、タイトル入力とITS (➡38ページ) を合わせてCD 100枚ぶんです。100枚を超えたときは、いちばん古い登録の内容が消去されて、新しいCDが登録されます。
- 内蔵CDでタイトルを入力したCDをマルチCDにセットしても、タイトルを表示できます。
- 「CD TEXT」には、タイトルを入力できません。

ラジオの便利な機能

ここでは、ラジオ受信時の便利な機能について説明しています。
FUNCとリモコンの1～6で設定します。

複数の放送局を自動で登録する	44
放送局を1局ずつ登録する	44
登録した放送局を受信する	45
●本体での操作	45
●リモコンでの操作	45
放送局の名前を変更する	46

複数の放送局を自動で登録する

BSM

BSM機能を使うと、受信状態の良い放送局を自動で探して登録できます。登録された放送局は、手軽に受信できます(➡45ページ)。



BSMとは

BSMは、Best Stations Memory (ベストステーションズメモリー) の略です。

1

[BAND] を押す

登録するバンドを選びます(➡28ページ)。



知っている则便利

●バンド1とバンド2を切り換えて使うことで、より多くの放送局を登録できます。例えば、バンド1にはふだんよく聞く放送局を登録しておきます。旅行などで、どんな放送局があるのかわからない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSMを使うと便利です。バンド1に登録した放送局を消さずに、バンド2でその地域の放送局を受信できます。

2

[FUNC] を押す

BSMに切り換わります。

3

▲ を押す

BSMによる登録が始まります。



登録が完了すると「ベストステーション検索中」の点滅が終わり、1の番号に登録された放送局を受信します。

▼ ボタンを押すと、BSMの登録処理を途中でやめることができます。

4

[BAND] を押す

ふだんの受信画面に戻ります。



ご注意

●受信状態の良い放送局が6局より少ないときは、前に登録した内容が残ることがあります。

放送局を1局ずつ登録する

リモコンの**①**~**⑥**のボタンを使って、よく聞く放送局を1局ずつ手動で登録できます(プリセットメモリー)。登録した放送局は、手軽に受信できます(➡45ページ)。

1

[BAND] を押す

登録するバンドを選びます。



知っている则便利

●本体の**[BAND]**でも、同じ操作ができます(➡28ページ)。

2

リモコンのジョイスティックを左または右に動かす

登録したい放送局を選びます。



知っている则便利

●本体の**◀**または**▶**でも、同じ操作ができます(➡28ページ)。

3

リモコンの**①**~**⑥**ボタンの1つを長く押す

放送局が登録されます。登録動作中に、押したボタンの番号(登録番号)が点滅します。



登録が完了すると、番号の点滅が終わりその放送局を受信します。



知っている则便利

●放送局のリストを表示しているときにも、放送局を登録できます(➡99ページ)。

登録した放送局を受信する

BSM (→44ページ) やプリセットメモリー (→44ページ) で登録した放送局を、手軽に受信できます。

本体での操作

1 BAND を押す

放送局を登録したバンドを選びます (→28ページ)。

2 ▲ または ▼ を押す

登録した放送局を順番に受信します。
次の番号に登録されている放送局を受信するとき：▲
前の番号に登録されている放送局を受信するとき：▼



リモコンでの操作

1 BAND を押す

放送局を登録したバンドを選びます。 (→28ページ)

2 ① ~ ⑥ の1つを押す。または、ジョイスティックを上下に操作する

リモコンの ① ~ ⑥
登録した放送局を受信します。

ジョイスティックの上下
登録した放送局を順番に受信します。
次の番号に登録されている放送局を受信するとき：上に動かす
前の番号に登録されている放送局を受信するとき：下に動かす



放送局の名前を変更する

ST.NAME SELECT

同じ周波数でも、受信する放送局は地域によって違います。表示されている放送局の名前が実際に受信している放送局のものと異なる場合、変更できます。

1 名前を変更したい放送局を受信する (→28ページ)



ご注意

- 名前を変更できるのは、受信中の放送局だけです。別の放送局の名前を変更したいときは、まずその放送局を受信 (→28ページ) してください。

2

FUNC を長く押す

ST.NAME SELECTが表示されます。

3

◀または▶を押す

放送局の名前を選びます。
次の放送局名を選ぶとき：▶
前の放送局名を選ぶとき：◀



ご注意

- 放送局の名前が登録されていない場合は、No dataと表示されます。

4

▲を押す

放送局の名前が変更されます。

5

BAND を押す

ふだんの画面に戻ります。



知っている则便利

- 放送局名を表示したくないときは、すべてが空白の表示を選んでください。
- パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCD (例：「CDX-FM675」) を使っている場合は、モジュレーターの周波数に合わせて、放送局名の表示をFM M-CDに変更できます。
- パイオニア製のTVをFMモジュレーターを使っている場合は、モジュレーターの周波数に合わせて、放送局名の表示をFM TV soundに変更できます。

再生環境に適した音と音場・音質の調節のために

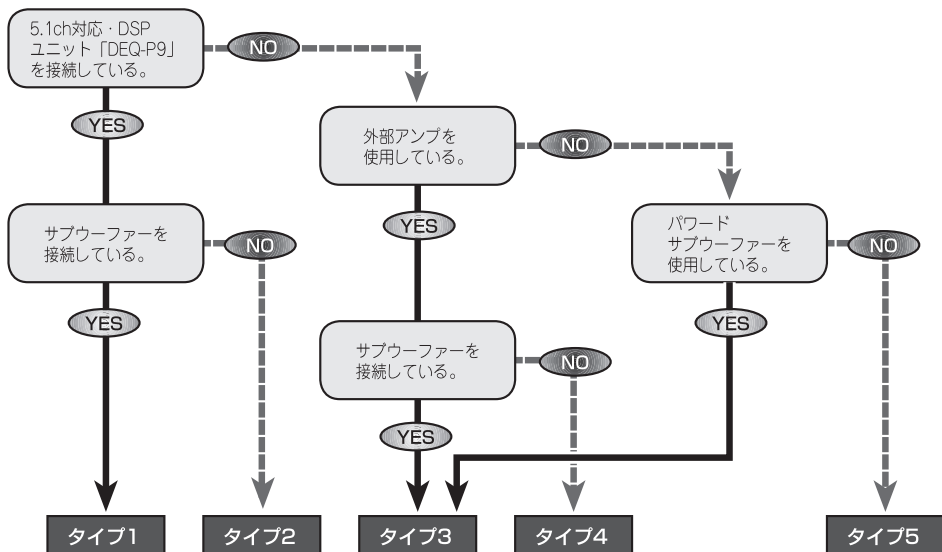
音の調節には、組み合わせたシステムごとに最適な手順があります。よりよい音を手軽に実現するために、正しい順序で調節してください。

サブウーファー設定の順序	48
本機と「DEQ-P9」の 音と音場・音質の調節機能	50
音と音場・音質の 効果的な調節の順序	51

サブウーファー設定の順序

本機にサブウーファーを組み合わせることができます。また、本機を使ってサブウーファーを設定できます。

サブウーファー設定の順序は、接続方法やシステムによって大きく異なります。次の表に従い、システムに合わせて正しく設定してください。



再生環境に適した音と音場・音質の調節のために

タイプ1

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合：入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプを接続している場合：ローパスフィルターをOFFに設定する
- ※パワードサブウーファーを接続している場合：カットオフ周波数を最も高い値に設定する

- ①スピーカーの有無とサイズを設定する（サブウーファーはONに設定）（→75ページ）
- ②「音と音場・音質の効果的な調節の順序」で説明している「[DEQ-P9]を接続した場合」（→51ページ）の設定をする

タイプ2

- ①スピーカーの有無とサイズを設定する（サブウーファーはOFFに設定）（→75ページ）
- ②「音と音場・音質の効果的な調節の順序」で説明している「[DEQ-P9]を接続した場合」（→51ページ）の設定をする

タイプ3

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合：入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプを接続している場合：ローパスフィルターをOFFに設定する
- ※パワードサブウーファーを接続している場合：カットオフ周波数を最も高い値に設定する

- ①RCA外部出力設定をS/Wにする（→112ページ）
- ②「音と音場・音質の効果的な調節の順序」で説明している「本機の場合」（→51ページ）の設定をする

タイプ4

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合：入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプを接続している場合：ローパスフィルターをOFFに設定する

- ①RCA外部出力設定をRearにする（→112ページ）
- ②「音と音場・音質の効果的な調節の順序」で説明している「本機の場合」（→51ページ）の設定をする

タイプ5

- ①RCA外部出力設定をRearにする（→112ページ）
- ②「音と音場・音質の効果的な調節の順序」で説明している「本機の場合」（→51ページ）の設定をする

本機と「DEQ-P9」の音と音場・音質の調節機能

本機に、別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を組み合わせて使用できます。

本機と「DEQ-P9」を組み合わせた場合、本機に内蔵の音と音場・音質の調節機能は無効になります。代わりに、「DEQ-P9」の音と音場・音質の調節機能を使用できます。本機と「DEQ-P9」の調節機能の違いは、次の表のとおりです。画面での名称を記載している欄が、その機能の搭載を表しています。

音と音場・音質の調節機能	画面での名称と機能の有無	
	本機	DEQ-P9
音量バランスの調節	FAD/BAL	FAD/BAL
ラウドネスのON/OFF	LOUD	—
サブウーファースのON/OFFと位相切り換え	SW1	—
サブウーファースのカットオフ周波数とレベル調節	SW2	—
サブウーファースのスロープ切り換え	SW3	—
ハイパスフィルタースのスロープ切り換え（フロント）	F-HPF1	—
ハイパスフィルタースのカットオフ周波数とレベル調節（フロント）	F-HPF2	—
ハイパスフィルタースのスロープ切り換え（リア）	R-HPF1	—
ハイパスフィルタースのカットオフ周波数とレベル調節（リア）	R-HPF2	—
ソース レベル アジャスター（SLA）の調節	SLA	SLA
イコライザースの選択	G.EQ1	P.EQ1
イコライザースの調節	G.EQ2	—
3バンド パラメトリック イコライザースの調節	—	P.EQ2
乗車位置の選択	POS1	POS1
タイムアライメントの選択	TA1	TA1
タイムアライメントの調節	TA2	TA2
オート TA&EQ 設定のON/OFF	AUTO-EQ	AUTO EQ
サウンド フィールド コントロール（SFC）の選択	SFC	SFC
オートマチック サウンド レベライザース（ASL）の選択	ASL	—
オートタイムアライメント（TA）&イコライジング（EQ）	オート TA&EQ 設定	オート TA&EQ 設定
スピーカースの有無とサイズの設定	—	SIZE
クロスオーバー周波数の設定	—	X/O
スピーカースレベルの調整	—	SP-LV
テストトーンの出カ	—	TEST
ダウンミックスの選択	—	D-MIX
ダイナミックレンジコントロールのON/OFF	—	DRC
ダイレクトのON/OFF	—	DIRECT
ドルビープロロジック II の選択	—	DcPL II 1
ドルビープロロジック II の調節（Music）	—	DcPL II 2

音と音場・音質の効果的な調節の順序

音と音場・音質を効果的に調節するには、正しい順序で行う必要があります。

本機の場合

- ①乗車位置をFront RightまたはFront Leftに設定する (➡68ページ)
- ②オート TA&EQ 設定を行う (➡61ページ)

知っているると便利

- オートタイムアライメント&イコライジング (オート TA&EQ 設定) を行うと、車室内の音響特性が乱れの少ない滑らかな状態に最適化されます。オート TA&EQ 設定を行ったあとに、以下の設定をすると効果的です。
 - ・イコライザーの選択 (➡65ページ)
 - ・イコライザーの調節 (➡66ページ)
 - ・ASL (オートマッチック サウンド レベライザー) の選択 (➡72ページ)
 - ・ラウドネスのON/OFF (➡55ページ)
 - ・SFC (サウンド フィールド コントロール) の選択 (➡71ページ)
 - ・SLA (ソース レベル アジャスター) の調節 (➡59ページ)
- オート TA&EQ 設定を行うと、以下の設定は最適な状態に自動で調節されます。必要に応じて微調整をしてください。
 - ・音量バランスの調節 (➡54ページ)
 - ・サブウーファースのON/OFFと位相切り換え (➡55ページ)
 - ・サブウーファースの調節 (➡56ページ)
 - ・サブウーファースのスロープ切り換え (➡57ページ)
 - ・ハイパスフィルターのスロープ切り換え (フロント) (➡57ページ)
 - ・ハイパスフィルターのカットオフ周波数とレベル調節 (フロント) (➡58ページ)
 - ・ハイパスフィルターのスロープ切り換え (リア) (➡57ページ)
 - ・ハイパスフィルターのカットオフ周波数とレベル調節 (リア) (➡58ページ)
 - ・タイムアライメントの選択 (➡68ページ)
 - ・タイムアライメントの調節 (➡69ページ)
 - ・オート TA&EQ 設定のON/OFF (➡70ページ)

「DEQ-P9」を接続した場合

- ①乗車位置をFront RightまたはFront Leftに設定する (➡92ページ)
- ②オート TA&EQ 設定を行う (➡84ページ)

知っているると便利

- オートタイムアライメント&イコライジング (オート TA&EQ 設定) を行うと、車室内の音響特性が乱れの少ない滑らかな状態に最適化されます。オート TA&EQ 設定を行ったあとに、以下の設定をすると効果的です。
 - ・イコライザーの選択 (➡89ページ)
 - ・ドルビープロロジック II の選択 (➡93ページ)
 - ・ダイレクトのON/OFF (オート TA&EQ 設定の効果を確認したいときにご使用ください) (➡82ページ)
- オート TA&EQ 設定を行うと、以下の設定は最適な状態に自動で調節されます。必要に応じて微調整をしてください。
 - ・音量バランスの調節 (➡74ページ)
 - ・クロスオーバー周波数の設定 (➡76ページ)
 - ・スピーカーレベルの調整 (➡77ページ)
 - ・テストトーン出力 (➡78ページ)
 - ・タイムアライメントの選択 (➡79ページ)
 - ・タイムアライメントの調節 (➡80ページ)
 - ・3バンドパラメトリックイコライザーの調節 (➡90ページ)
 - ・オート TA&EQ 設定のON/OFF (➡96ページ)
- DVDを再生しているときは、好みや再生環境に合わせて以下の設定をしてください。
 - ・ダイナミックレンジコントロールのON/OFF (➡81ページ)
 - ・ダウンミックスの選択 (➡81ページ)

音の調節

本機は、車内をよりよい音響空間にするために、さまざまな音の調節機能を搭載しています。これらは、**AUDIO** で切り換えて設定します。

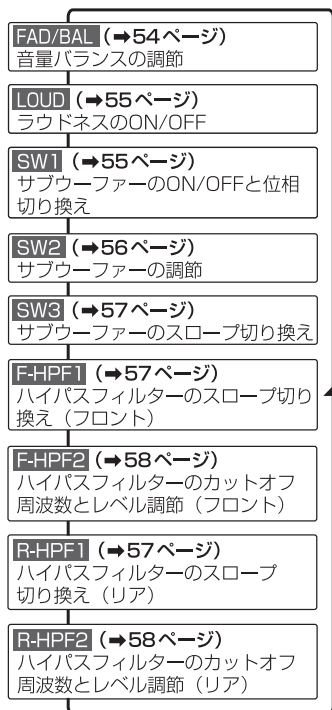
AUDIO で機能を切り換える	54
前後左右の音量バランスを調節する	54
低音・高音の不足感を補う	55
サブウーファースの	
ON/OFFと位相切り換え	55
サブウーファースの	
カットオフ周波数とレベル調節	56
サブウーファースのスロープ切り換え	57
ハイパスフィルターの	
スロープ切り換え	57
ハイパスフィルターの	
カットオフ周波数とレベル調節	58
ハイパスフィルターの効果を	
確認する	59
各ソースの音量をそろえる	59
音響特性を最適に自動補正する前に	60
音響特性を最適に自動補正する	61

AUDIO で 機能を切り換える

音の調節機能は、**AUDIO**で切り換えてから設定します。

1 **AUDIO** を押す

ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります。



知っているると便利

- ふだんの再生画面に戻るには、**BAND**を押します。また、約30秒間、何も操作しなかったときは自動で戻ります。

ご注意

- SW1/SW2/SW3に切り換わるのは、初期設定の「RCA外部出力の設定」(→112ページ)でSWを選択しているときだけです。
- F-HPF1 (R-HPF1) をOFFにしたときは、F-HPF2 (R-HPF2) には切り換わりません。

前後左右の音量 バランスを調節する

FAD/BAL

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節できます。より自然に聞こえるバランスに設定してください。

1 **AUDIO** を押す

FAD/BALを選びます (→54ページ)。

2 ▲または▼を押す

前後のバランスが調節できます。

前を強めるとき：▲

後ろを強めるとき：▼



調節できる範囲はF25 ~ R25です。

3 ◀または▶を押す

左右のバランスが調節できます。

右を強めるとき：▶

左を強めるとき：◀



調節できる範囲はL25 ~ R25です。

4 **BAND** を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

低音・高音の不足感を補う

LOUD

小さな音量で音楽を聞いていると、低音・高音が不足しているように感じることがあります。ラウドネスを使うと、この不足感を補って、音を聞きやすくすることができます。

1

AUDIO を押す

LOUD を選びます (⇒54ページ)。

2

▲ を押す

ラウドネスがONになります。



▼ ボタンを押すと、OFFになります。

3

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

サブウーファースのON/OFFと位相切り換え

本機とサブウーファースを組み合わせる場合、サブウーファースの設定をONにする必要があります。また、サブウーファースの音が自然に聞こえるように、サブウーファースの位相を設定してください。



サブウーファースの位相とは

サブウーファースから出力される音の中には、フロント・リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。車内の条件によりサブウーファースとフロント・リアスピーカーの音の位相が反転(干渉)すると、その周波数帯域が打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐために、サブウーファースの位相を切り換えます。サブウーファースの音が自然に聞こえるように、車内の条件に合わせて位相の正相または逆相を選んでください。正相は、サブウーファースとフロント・リアスピーカーから同時に音が出力されます。逆相は、サブウーファースとフロント・リアスピーカーでタイミングをずらして音が出力されます。

1

AUDIO を押す

SW1 を選びます (⇒54ページ)。

2

▲ を押す

サブウーファースがONになります。



▼ を押すと、OFFになります。



ご注意

- SW1をOFFにしたときは、SW2(サブウーファースのカットオフ周波数選択とレベル調節)(⇒56ページ)とSW3(サブウーファースのスロープ切り換え)(⇒57ページ)の一連の操作はできません。

サブウーファーのカットオフ周波数とレベル調節

SW1

SW2

3

◀ または ▶ を押す

サブウーファーの位相が切り換わります。

正相 (Normal) を選ぶとき : ▶

逆相 (Reverse) を選ぶとき : ◀



カットオフ周波数とは

選んだ値より低い周波数の音が、サブウーファーから出力されます。

4

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

1

AUDIO を押す

SW2 を選びます (⇒54ページ)。

2

◀ または ▶ を押す

カットオフ周波数が選べます。

高い周波数を選ぶとき : ▶

低い周波数を選ぶとき : ◀



選べる周波数は、50/63/80/100/125/160/200 (Hz) です。

3

▲ または ▼ を押す

レベルが調節できます。

レベルを大きくするとき : ▲

レベルを小さくするとき : ▼



調節できる範囲は-24 ~ +6です。

4

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

サブウーファースロープ切り換え

SW3

サブウーファーとフロント・リアスピーカーとの音のつながりを調節するために、サブウーファースロープを設定します。

? スロープとは

スロープとは、周波数が1オクターブ高く(低く)なったとき、信号が何dB減衰するかを表す値です(単位: dB/oct.)。スロープの傾きを大きくすると、信号が減衰する度合いが大きくなります。

1

AUDIO を押す

SW3 を選びます (⇒54ページ)。

2

◀ または ▶ を押す

スロープが選べます。



選べるスロープは、-18 (dB/oct.) / -12 (dB/oct.) / -6 (dB/oct.) です。

3

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

ハイパスフィルターのスロープ切り換え

F-HPF1 R-HPF1

フロント・リアスピーカーとサブウーファーとの音のつながりを調節するために、フロント・リアスピーカーのハイパスフィルター (HPF) のスロープを設定します。スロープは、フロントスピーカーとリアスピーカーのそれぞれで設定できます。

? ハイパスフィルター (HPF) とは

ハイパスフィルター (HPF) は、設定した周波数から下の音域 (低域) をカットして高域を通すフィルターです。

? スロープとは

スロープとは、周波数が1オクターブ高く(低く)なったとき、信号が何dB減衰するかを表す値です(単位: dB/oct.)。スロープの傾きを大きくすると、信号が減衰する度合いが大きくなります。

1

AUDIO を押す

F-HPF1 または R-HPF1 を選びます (⇒54ページ)。

フロントスピーカーを調節するとき:

F-HPF1

リアスピーカーを調節するとき:

R-HPF1

2

◀ または ▶ を押す

スロープが選べます。



選べるスロープは、-12 (dB/oct.) / -6 (dB/oct.) / Pass です。

3

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

ハイパスフィルターのカットオフ周波数とレベル調節

F-HPF2 R-HPF2

フロント・リアスピーカーとサブウーファーとの音のバランスを調節するために、フロント・リアスピーカーのハイパスフィルターのカットオフ周波数とレベルを設定します。全体的な音のバランスが自然になるように設定してください。



カットオフ周波数とは

選んだ値より高い周波数の音が、フロント・リアスピーカーから出力されます。

1

AUDIO を押す

F-HPF2 または **R-HPF2** を選びます
(⇒54ページ)。

フロントスピーカーを調節するとき：

F-HPF2

リアスピーカーを調節するとき：

R-HPF2

4

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

2

◀ または ▶ を押す

カットオフ周波数が選べます。

高い周波数を選ぶとき：▶

低い周波数を選ぶとき：◀



選べる周波数は、50/63/80/
100/125/160/200(Hz)です。

3

▲ または ▼ を押す

レベルが調節できます。

レベルを大きくするとき：▲

レベルを小さくするとき：▼



調節できる範囲は-24～±0です。

ハイパスフィルターの効果を確認する

F-HPF1 R-HPF1

ハイパスフィルターを設定したフロント・リアスピーカーの音をミュートできます。設定したハイパスフィルターの効果を確認するときに使用します。

1

AUDIO を押す

F-HPF1 または **R-HPF1** を選びます (⇒54ページ)。

フロントスピーカーをミュートするとき：**F-HPF1**

リアスピーカーをミュートするとき：**R-HPF1**

2

▼ を長く押す

選んだスピーカー（フロントスピーカーまたはリアスピーカー）がミュートされます。



MUTEが表示されます。

▲ を押すと、ミュートが解除されます。

3

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

各ソースの音量をそろえる

SLA

ソースを切り換えたときに、ソースごとの音量が違ふことがあります。SLAを使うと、FMの音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。



SLAとは

SLAは、Source Level Adjuster（ソースレベルアジャスター）の略です。

1

AUDIO を長く押す

SLAが表示されます (⇒54ページ)。



ご注意

● FMを聞いているときはSLAには切り換わりません。

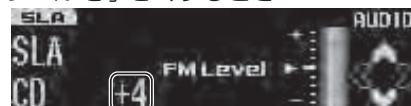
2

▲ または ▼ を押す

SLAのレベルを調節できます。

レベルを大きくするとき：▲

レベルを小さくするとき：▼



調節できる範囲は-4～+4です。

3

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。



ご注意

● AM / テレビ / CD / MD / DVD / iPod / AUX（外部機器） / エクスターナルのそれぞれの音量差を調節できます。なお、内蔵CDとマルチCD / エクスターナル1とエクスターナル2 / AMと交通情報 (⇒103ページ) はそれぞれ同じ設定になります。

音響特性を最適に自動補正する前に

音響特性を最適に自動補正する（オート TA&EQ 設定）（⇒61ページ）前に、必ずお読みください。



音響特性の最適な自動補正とは

車内空間には、その形状や材質、スピーカーの取付位置、聞く位置など、さまざまな制約があります。このため、ホームオーディオに比べて音響特性が大きく乱れています。この乱れを補正するには一般的に、イコライザーなどを使用します。また、音響特性を最適にする場合は、音響測定器などの道具や音質調節の熟練した技術が必要です。

音響特性を最適に自動補正するために、本機はオート TA&EQ 設定という機能を備えています。オート TA&EQ 設定を使うと、ユーザーが専用のマイクを所定の位置に取り付けるだけで、複雑で難しい音響調節を本機が自動で行います。オート TA&EQ 設定のうち、車室内の音響特性を乱れが少なく滑らかな状態に最適化するのがオート EQ です。また、各スピーカーから乗車位置までの距離を測定し、音声の到達時間を補正するのがオート TA です。オート TA とEQ によって、それぞれの車にとって最良の音響特性を手軽に実現できます。



警告

走行中にオート TA&EQ 設定を行わない



自動車が走行中にオート TA&EQ 設定を行わないでください。オート TA&EQ 設定は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因となることがあります。



スピーカーの破損を防止するために

次の状態でオート TA&EQ 設定を行うと、スピーカーが破損することがあります。オート TA&EQ 設定を行う前に、よく確認してください。

- スピーカーの接続を誤っている。
- サブウーファー出力にリアスピーカーを接続している場合)
- スピーカーの耐入力を超える出力のパワーアンプを接続している。



オート TA&EQ 設定を行う前に必ずしておくこと

オート TA&EQ 設定を効果的に行うために、いくつかの準備が必要です。以下を参照して、正しく準備してください。

- なるべく静かな場所に車を停車する。
- 車のエンジン／エアコン／ヒーターをOFFにする。エアコンやヒーターのファンの騒音によって、オート TA&EQ 設定が実行できないことがあります。

- 携帯電話や車載電話の電源を切る。または、車の外に持ち出す。
- 付属の音響特性測定用マイクを用意する。それ以外のマイクでは、音響特性が正しく測定されません。
- フロントスピーカーを接続する。
- フロントスピーカーのミュートを解除する。
- 乗車位置 (POSI) を設定する（⇒68ページ）。乗車位置をFront RightまたはFront Left以外に設定したときは、オート TA&EQ 設定を始める時強制的にFront Rightに設定されます。
- 入力レベルコントロール付きのパワーアンプを接続している場合は、入力レベルを推奨位置に合わせる。
- ローパスフィルター付きのパワーアンプを接続している場合は、ローパスフィルターをOFFにする。
- ローパスフィルター付きのパワードサブウーファーを接続している場合は、ローパスフィルターのカットオフ周波数を最も高い値に設定する。



オート TA&EQ 設定で変更される設定

- オート TA&EQ 設定を行うと、音と音質・音場の設定が次のように変更されます。
 - ・ FAD/BAL（⇒54ページ）：初期設定に戻る。
 - ・ G.EQ1（⇒65、66ページ）とG.EQ2（⇒67ページ）：Flatに設定される。
 - ・ POSI（⇒68ページ）：Front Rightに設定される（Front Leftに設定していた場合は、Front Leftのまま）。
 - ・ SW1（⇒55ページ）：OFFにしていた場合、ONに設定される。
 - ・ F-HPF1 / R-HPF1（⇒57ページ）とF-HPF2 / R-HPF2（⇒58ページ）：車内の音響特性に合わせて調節される。



ご注意

- 再度オート TA&EQ 設定を行うと、前回の調節内容は消去されます。
- オート TA&EQ 設定で測定されたタイムアライメントの値は、コンピューターが算出した正確な遅延時間に基づくものです。次のような場合に実際の距離と異なることがあります。そのままだご利用ください。
 - ・ 車室内の反射音が直接音より強く、かつ遅延を生じている。
 - ・ パワードサブウーファーや外部アンプのローパスフィルターの影響により、低音に遅延が生じている。

音響特性を最適に自動補正する

オート TA&EQ 設定

音響特性の自動補正を始める前に、「音響特性を最適に自動補正する前に」(→60ページ)をよく読んで、準備をしてください。

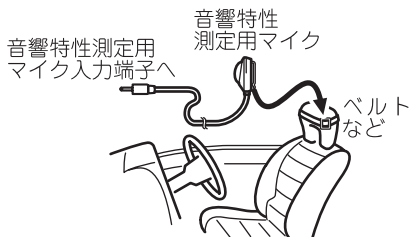


手を挟まれないよう注意

- フロントパネルの開閉動作中は、指などを挟まないようご注意ください。

1 音響特性測定用マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に付属の音響特性測定用マイクを前向きに固定します。



📌 ご注意

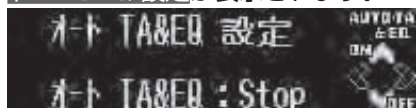
- 音響特性測定用マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかったりして、車のバッテリーが上がる恐れがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。音響特性測定用マイクをセットする位置により、オート TA&EQ 設定の調節内容が変化します。助手席にセットすることもできます。

2 SRC を長く押す

本機の電源がOFFになります。

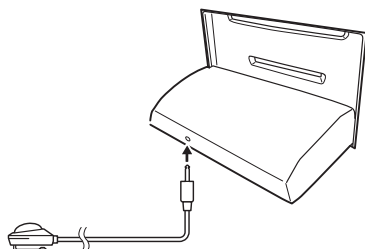
3 AUDIO を長く押す

フロントパネルが自動的に開き、オート TA&EQ 設定が表示されます。



4 音響特性測定用マイクを本機に接続する

音響特性測定用マイクを、音響特性測定用マイク入力端子に接続します。

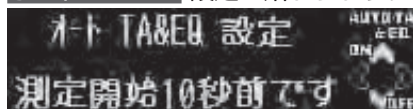


📌 ご注意

- 音響特性測定用マイクを確実に挿入して、オート TA&EQ 設定を行ってください。本機に音響特性測定用マイクが確実に挿入されていない状態でオート TA&EQ 設定を行うと、エラーメッセージが表示されます。

5 ▲ を押す

オート TA&EQ 設定が始まります。



中止するには、▼を押します。

📌 ご注意

- オート TA&EQ 設定が測定を始めてから終了するまでの時間は約4分です。ただし、周囲の騒音状態や車両形状、スピーカーの数などにより測定時間は変わります。

6 車外に出る

「ピッ」という音で10秒のカウントダウンが始まります。10秒以内に車外に出て、ドアを閉めてください。



知っていると便利

- オート TA&EQ 設定を途中でやめるときは、**BAND** を押してください。中止されて、電源がOFFになります。

7 測定が開始される

測定音（ノイズ）が各スピーカーから出力され、測定が始まります。

8 オートTA&EQ設定が自動で終了する

計測が終わると、**オート TA&EQ 設定** は自動で終了します。



正常に終了すると、「設定を終了しました」と表示されます。

9 音響特性測定用マイクを取り外す

音響特性測定用マイクは、グローブボックスなどに入れて、大切に保管してください。



ご注意

- 音響特性測定用マイクを直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形や変色、故障の原因になります。
- 音響特性測定用マイクは、必ず取り外してください。接続したまま**BAND**を押すと、警告音が鳴り、フロントパネルは閉まりません。

10 **BAND** を押す

オート TA&EQ 設定 が解除されます。


11 を押す


フロントパネルを元の位置に戻してください。



- フロントパネルを開けたまま、走行しないでください。急ブレーキ時にフロントパネルに体が当たったりして思わぬケガをする恐れがあります。

音場・音質の調節

本機は、車内をよりよい音響空間にするために、さまざまな音場・音質の調節機能を搭載しています。これらは、 (DSP) で切り換えて設定します。

 (DSP) で機能を切り換える	64
音質を手軽に調節する	65
イコライザーカーブに 簡単な補正を加える	66
イコライザーカーブを 細かく調節する	67
音場の中心で聞く	68
タイムアライメントを選ぶ	68
タイムアライメントを調節する	69
オート TA&EQ 設定を ON / OFFする	70
イメージに合った演奏会場を 再現する	71
騒音に合わせて音量と音質を 自動で補正する	72

⊖ (DSP) で 機能を切り換える

音場・音質の調節機能は、⊖ (DSP) で切り換えてから設定します。

1 ⊖ (DSP) を押す

ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります。



知っている则便利

- ふだんの再生画面に戻るには、**⏪**を押します。また、約30秒間、何も操作しなかったときは自動で戻ります。

音質を手軽に調節する

G.EQ1

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを選ぶだけで、音質を手軽に調節できます。イコライザーカーブは、Cyber Pop/Venus (Venus Voice) /H.Groove (Hyper Groove) /A. Cafe (Acoustic Cafe) /Flat /Custom 1 /Custom 2の7種類です。

それぞれのイコライザーカーブの効果

- Cyber Pop
中低域と中高域が厚みを持ち、ビート系の音楽が力強く響きます。
- Venus (Venus Voice)
中低域が厚みを持ち、女性ボーカルが豊かにかつ包まれるかのように聞こえます。
- H.Groove (Hyper Groove)
低域が強調されることで、打楽器系の音が前面に押し出されてダンス系の音楽が元よく聞こえます。
- A. Cafe (Acoustic Cafe)
中高域が抑えられ、音楽がBGMのように聞こえます。
- Flat
音の補正をしません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えて、イコライザーの効果を確認するときに使用してください。
- Custom 1
調節したイコライザーカーブがソースごとに登録されます(⇒66、67ページ)。内蔵CDとマルチCD / エクスターナル1とエクスターナル2は、それぞれ同じ設定になります。
- Custom 2
調節したイコライザーカーブが、全ソースに共通のカーブとして登録されます (⇒66、67ページ)。

交通情報を受信しているときは

- 交通情報を受信しているときは、イコライザーカーブは選べません。

1 (DSP) を押す

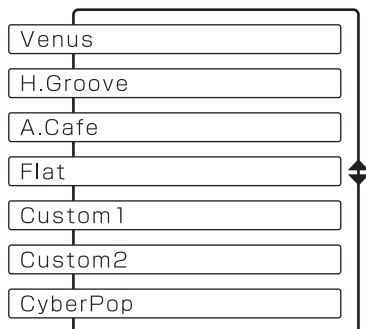
G.EQ1を選びます (⇒64ページ)。

2 ◀ または ▶ を押す

イコライザーカーブが選べます。



ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



3 BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

イコライザーカーブに簡単な補正を加える

G.EQ1

あらかじめ用意されたイコライザーカーブの全体的なバランスは崩さずに、効果を大まかに弱めたり強めたりできます。用意されたイコライザーカーブの物足りなさを解消したいときに効果的です。

1 (DSP) を押す

G.EQ1を選びます (→64ページ)。

4 を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

2 または を押す

調節したいイコライザーカーブを選びます。

3 または を押す

レベルが調節できます。
レベルを大きくするとき：▲
レベルを小さくするとき：▼



調節できる範囲は次のとおりです。

Venus	-3 ~ +6
H. Groove	-6 ~ +6
A. Cafe	-5 ~ +6
CyberPop	-5 ~ +6



ご注意

- Flatおよび、すべての周波数が0に設定されているCustom1とCustom2は補正できません。
- Custom1とCustom2は、登録されているカーブによって調節できる範囲が狭くなることがあります。

イコライザーカーブを細かく調節する

G.EQ2

あらかじめ用意されたイコライザーカーブに対して、周波数ごとにレベルを細かく調節できます。イコライザーカーブの特定の周波数に過不足を感じたときなどに使うと効果的です。

1 ② (DSP) を押す

G.EQ1を選びます (→64ページ)。

2 ◀ または ▶ を押す

調節したいイコライザーカーブを選びます (→65ページ)。

3 ② (DSP) を押す

G.EQ2を選びます。

4 ◀ または ▶ を押す

調節したい周波数を選びます。

高い周波数を選ぶとき：▶

低い周波数を選ぶとき：◀



選べる周波数は、50/80/125/200/315/500/800/1.25k/2k/3.15k/5k/8k/12.5k (Hz)です。

5 ▲ または ▼ を押す

レベルが調節できます。

レベルを大きくするとき：▲

レベルを小さくするとき：▼



調節できる範囲は-6 ~ +6です。

6 BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

📌 ご注意

- 調節したイコライザーカーブは、ソースごとにCustom1カーブとして登録されます。内蔵CDとマルチCD/エクスターナル1とエクスターナル2は、それぞれ同じ設定になります。
- 一度も調節していないソースでは、ほかのソースで最後に調節した内容が呼び出されます。
- Custom2を選んでいるときに調節すると、その内容がCustom2として新たに登録されます。

音場の中心で聞く

POSI

座席位置や人数に合わせて、各スピーカーから出力される音の遅延時間とレベルを自動で調節できます。この機能を使うと、どの座席位置でも自然な音響特性が得られます。

1 [DSP] を押す

POSIを選びます (→64ページ)。

2 ▲ / ▼ / ◀ / ▶ を押す

乗車位置を選びます。

- 前部右座席 (Front Right) を選ぶとき：▶
- 前部左座席 (Front Left) を選ぶとき：◀
- 前部座席 (Front R&L) を選ぶとき：▲
- 全座席 (All seat) を選ぶとき：▼



同じボタンを押すごとに、ON/OFFします。

乗車位置の選び方の基準

- 以下を参考に選んでください。
 - ・Front Right：右ハンドル車に運転者だけがいるとき。
 - ・Front Left：左ハンドル車に運転者だけがいるとき。
 - ・Front R&L：同乗者が助手席にいるとき。
 - ・All seat：同乗者が後部座席にいるとき。

3 [BAND] を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

知っていると便利

- 選んだ乗車位置ごとに、FAD/BAL (音量バランス) (→54ページ) を登録できます。

タイムアライメントを選ぶ

TA1

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節する機能です。Initial / Custom / Auto TA / TA OFFから選べます。

1 [DSP] を押す

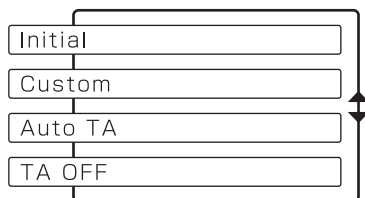
TA1を選びます (→64ページ)。

2 ◀ または ▶ を押す

タイムアライメントが選べます。



ボタンを押すごとに、次の順序で切り替わります。



タイムアライメントの選び方の基準

- 以下を参考に選んでください。
 - ・Initial：工場出荷時に設定されたタイムアライメントの初期値です。
 - ・Custom：お好みに合わせて調節できるタイムアライメントです。
 - ・Auto TA：オートタイムアライメント&イコライジング (オート TA&EQ 設定) 機能を使って設定したタイムアライメントです。オート TA&EQ 設定を行ったあとは、自動でこの設定になります。
 - ・TA OFF：タイムアライメントをOFFにします。

ご注意

- オート TA&EQ 設定 (→61ページ) を行っていない場合は、Auto TAは選べません。

3 [BAND] を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

タイムアライメントを調節する

TA2

各スピーカーから乗車位置までの距離を設定することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節できます。乗車位置を設定する（➡68ページ）と自動で調節されますが、タイムアライメントではさらに細かく調節できます。

📌 タイムアライメントを調節する前に

- POSI（➡68ページ）で、Front RightかFront Leftを選んでください。それ以外の乗車位置を選んでいると、タイムアライメントは調節できません。
- TA1（➡68ページ）で、TA OFF以外を選んでください。TA OFFにしていると、タイムアライメントは調節できません。

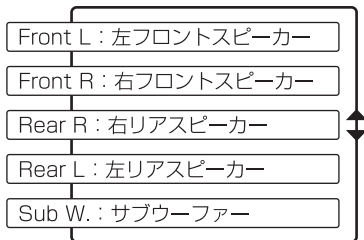
1 調節の元になるタイムアライメントを選んでおく（➡68ページ）

2 (DSP) を押す

TA2を選びます（➡64ページ）。

3 ◀ または ▶ を押す

調節したいスピーカーを選びます。ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



📌 ご注意

- サブウーファーを接続したときは、SW1（➡55ページ）を必ずONにしてください。OFFになっていると、Sub W.には切り換わりません。

4 ▲ または ▼ を押す

距離が調節できます。
距離を長くするとき：▲
距離を短くするとき：▼



調節できる範囲は0.0cm ~ 400.0cmです。

📌 知っている则便利

- 調節した内容は、Custom（➡65ページ）に登録されます。

5 を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

オート TA&EQ 設定 をON/OFFする

AUTO-EQ

オート TA&EQ 設定 (⇒61ページ) で
調節された内容をON/OFFできます。



ご注意

- オート TA&EQ 設定を行っていない場合は、オートイコライザーのON/OFFは切り換えできません。

1

⊖ (DSP) を押す

AUTO-EQを選びます
(⇒64ページ)。

2

▲ を押す

AUTO EQがONになります。



▼を押すと、OFFになります。

3

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

イメージに合った演奏会場を再現する

SFC

本機は、イメージに合った演奏会場を再現するために、SFCとBBEという機能を搭載しています。SFCでは、実際にその演奏会場にいるかのような音場を再現できます。BBEでは、音の鮮明度が高く、ライブ演奏に近い自然な臨場感を再現できます。

SFCとは

SFCは、Sound Field Control (サウンド フィールド コントロール) の略です。演奏会場で聞く音には、会場ごとに独特の雰囲気があります。会場の広さや形状、残響特性が異なるため、直接音や初期反射音、残響音の長さ、残響音の質が変化するためです。SFCの音場プログラムは、この性質を考慮して設定されています。音場プログラムは、Studio / Jazz Club / Clubの3種類です。

- ・ Studio
比較的狭いスタジオのイメージです。音場の広がりを感じられます。
- ・ Jazz Club
50 ~ 100人程度を収容するジャズクラブのイメージです。ライブ録音などに効果があります。
- ・ Club
200~300人程度を収容するクラブやディスコのイメージです。ビートの効いた音楽に適しています。

BBEとは

BBEは、音楽再生時に発生する高調波成分の遅延や振幅の乱れを、位相補正と高域ブーストを組み合わせさせて修復します。これにより、原音に近い音を再現します。

この製品は、BBEサウンド・インコーポレーテッドからの実施権に基づき製造されています。この製品は米国BBE社の所有する特許USP4638258とUSP4482866を使用しています。BBEとBBEのシンボルは、BBE Sound, Inc.の登録商標です。

1 (DSP) を押す

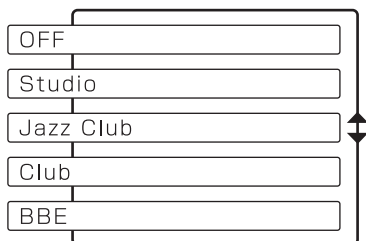
SFCを選びます (→64ページ)。

2 ◀ または ▶ を押す

音場プログラムが選べます。



ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



3 手順2でBBEを選択したときは、▲ または ▼ を押す

BBEのレベルが調節できます。
レベルを大きくするとき：▲
レベルを小さくするとき：▼



調整できる範囲は-4 ~ +4です。

騒音に合わせて音量と音質を自動で補正する

ASL

走行中の騒音によって、再生している音が聞こえにくくなることがあります。オートマチック サウンド レベライザー (ASL) を使うと、騒音のレベルに合わせて音量と音質を自動で補正できます。ボリューム操作などに煩わされることなく、安定した聞き心地が保てます。

ASLとは

ASLは、Automatic Sound Levelizer (オートマチック サウンド レベライザー) の略です。走行速度や道路状況によって変化する車内の騒音を、本機に内蔵のマイクで検知します。これにより、騒音のレベルに合わせて音量と音質を自動で変化させます。

1 (DSP) を押す

ASLを選びます (→64ページ)。

2 ▲ を押す

ASL がONになります。

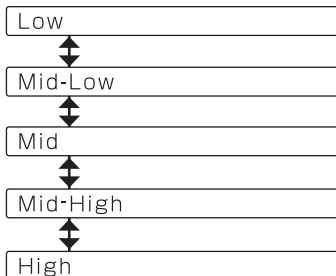
▼を押すと、OFFになります。

3 ◀または▶ を押す

ASLのレベルが選べます。



ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



4 BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。



知っている则便利

- ASLがONのとき、インジケーターが表示されます。
- ASLの効果量がバーで表示されます。

ご注意

- 元の音量が十分なときは、騒音が大きくても音量の上げ幅は小さくなります。
- ASLが働いて音量が上がり過ぎたとき、音が歪むことがあります。その場合は、VOLUMEで音量を下げてください。

別売DSPの音の調節

別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を組み合わせると、「DEQ-P9」の音の調節機能进行操作できます。これらは、**AUDIO**で切り換えて設定します。

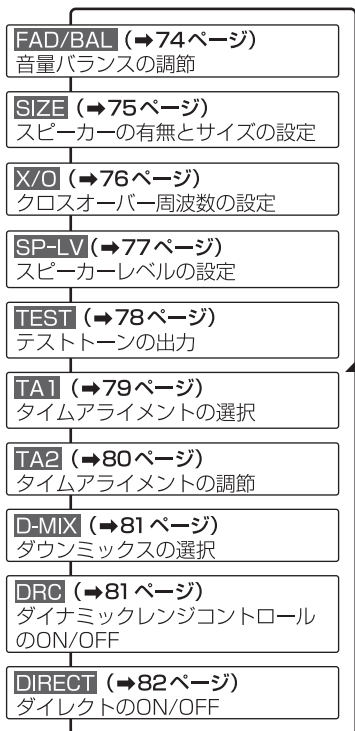
AUDIO で機能を切り換える……………	74
前後左右の音量バランスを調節する ……	74
各スピーカーの有無とサイズを 設定する……………	75
スピーカーどうしの音のつながりを 調節する……………	76
スピーカーの出力レベルを微調整する ……	77
テストトーンでスピーカーの 出力レベルを調整する……………	78
タイムアライメントを選ぶ……………	79
タイムアライメントを調節する……………	80
センターなしで5.1chの サラウンド感を再現する……………	81
小さな音を聞きやすくする……………	81
オリジナルの音質で聞く……………	82
各ソースの音量をそろえる……………	82
音響特性を最適に自動補正する前に ……	83
音響特性を最適に自動補正する……………	84

AUDIO で 機能を切り換える

音の調節機能は、**AUDIO**で切り換えてから設定します。

1 **AUDIO** を押す

ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります。



前後左右の音量バランスを調節する

FAD/BAL

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節できます。より自然に聞こえるバランスに設定してください。

1 **AUDIO** を押す

FAD/BALを選びます。

2 ▲または▼を押す

前後のバランスが調節できます。

前を強めるとき：▲

後ろを強めるとき：▼



調節できる範囲はF25～R25です。

3 ◀または▶を押す

左右のバランスが調節できます。

右を強めるとき：▶

左を強めるとき：◀



調節できる範囲はL25～R25です。

4 **BAND** を押す

ふだんの再生画面に戻ります。



知っていると便利

- ふだんの再生画面に戻るには、**BAND**を押します。また、約30秒間、何も操作しなかったときは自動で戻ります。

各スピーカーの有無とサイズを設定する

SIZE

スピーカーの有無とサイズ（低音再生能力）を設定できます。この設定により、スピーカーを接続していないチャンネルの音をほかのスピーカーに振り分けます。また、低音再生に適したスピーカーの設定をします。

スピーカーのサイズ設定の目安

- 100 Hz以下の周波数の再生能力が基準になります。スピーカーが100 Hz以下の周波数を再生できる場合は、サイズをLargeにしてください。できない場合は、サイズをSmallにしてください。スピーカーの再生周波数帯域については、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。

1

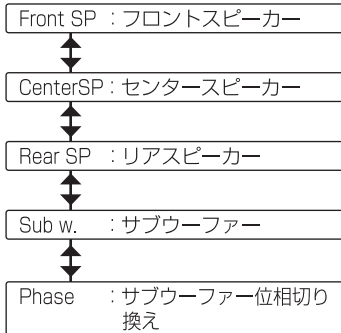
AUDIO を押す

SIZE を選びます (⇒74ページ)。

2

◀ または ▶ を押す

設定したいスピーカーが選べます。ボタンを押すごとに、次の順序で切り換ります。



ご注意

- 手順3でSub w.をONにしないと、Phaseには切り換わりません。

スピーカーの種類	設定
Front SP	Small / Large
CenterSP	OFF / Small / Large
Rear SP	OFF / Small / Large
Sub w.	ON / OFF
Phase	Normal / Reverse



ご注意

- 接続していないスピーカーの設定は、必ずOFFにしてください。
- フロントスピーカーとリアスピーカーの両方をSmallに設定すると、低音が著しく不足した感じになります。
- 2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジックⅡを使うと、次のような現象が起こることがあります。
 - ・センタースピーカーの設定をSmallやLargeにしている場合、センタースピーカーだけから音が出力される。
 - ・センタースピーカーを接続しないと、音が出力されない。
- サブウーファーを接続したときは、Sub w.を必ずONにしてください。OFFの場合は、Phaseの設定ができません。

3

▲ または ▼ を押す

スピーカーの有無とサイズを設定します。



各スピーカーの設定は、次の中から選べます。

4

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

スピーカーどうしの音のつながりを調節する

X/O

スピーカーどうしの音のつながりを調節するために、クロスオーバー周波数を設定します。全体的な音のバランスが自然になるように設定してください。



クロスオーバー周波数とは

複数のスピーカーで構成されるシステムで、それぞれのスピーカーが再生する周波数帯域の境界のことです。



クロスオーバー周波数と各スピーカーの音の関係

- クロスオーバー周波数は、スピーカーの有無をONに設定したサブウーファーおよびスピーカーサイズをSmallに設定したスピーカーで設定できます。サブウーファーでクロスオーバー周波数を設定すると、選んだ周波数より低い帯域の音だけが再生されます。高い帯域の音はカットされて、SmallまたはLargeに設定したスピーカーから再生されます。Smallに設定したスピーカーでクロスオーバー周波数を設定すると、選んだ周波数より高い帯域の音だけが再生されます。低い帯域の音はカットされて、サブウーファーまたはLargeに設定したスピーカーから再生されます。

1

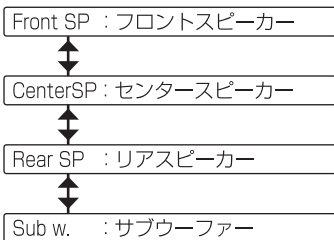
AUDIO を押す

X/Oを選びます (⇒74ページ)。

2

◀ または ▶ を押す

クロスオーバー周波数を設定したいスピーカーを選びます。ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



3

▲ または ▼ を押す

クロスオーバー周波数が選べます。高い周波数を選ぶとき：▲低い周波数を選ぶとき：▼



選べる周波数は、63/80/100/125/160/200 (Hz) です。

4

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。



ご注意

- SIZE (スピーカーサイズの設定) (⇒75ページ) でOFFにしたスピーカーは選べません。

スピーカーの出力レベルを微調整する

SP-LV

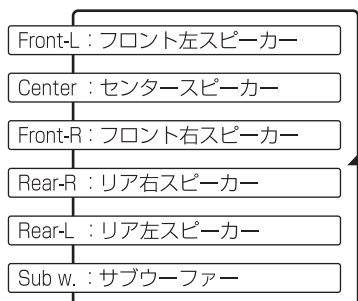
スピーカーシステム全体のバランスを整えたいときに、各スピーカーの出力レベルを調整します。テストトーン（⇒78ページ）を使って調整したあと、実際の音を聞きながら微調整できます。

1 AUDIO を押す

SP-LVを選びます（⇒74ページ）。

2 ◀または▶を押す

出力レベルを設定したいスピーカーが選べます。
ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



3 ▲または▼を押す

出力レベルを調整します。
レベルを大きくするとき：▲
レベルを小さくするとき：▼



調整できる範囲は-10~+10です。

4 BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

📌 ご注意

- SIZE（スピーカーサイズの設定）（⇒75ページ）でOFFにしたスピーカーは選べません。

📌 ご注意

- スピーカーの出力レベルは、TEST（テストトーン）（⇒78ページ）と実際の音のどちらを使っても同様に調整できます。

テストトーンで スピーカーの出力レベルを調整する

TEST

テストトーンを使って、スピーカーシステム全体の出力レベルのバランスを整えます。調整したあと、実際の音を聞きながら微調整することもできます（⇒77ページ）。

1

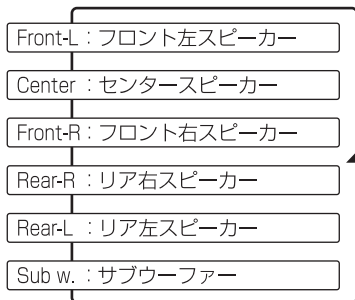
AUDIO を押す

TEST を選びます（⇒74ページ）。

2

▶ を押す

テストトーンが出力されるスピーカーが自動で切り換わります。切り換わる順序は次のとおりです。



ご注意

- SIZE（スピーカーサイズの設定）（⇒75ページ）でOFFにしたスピーカーには切り換わりません。

3

▲ または ▼ を押す

出力レベルを調整します。
レベルを大きくするとき：▲
レベルを小さくするとき：▼



調整できる範囲は-10～+10です。



ご注意

- 出力レベルを調整している間、次のスピーカーには切り換わりません。

4

◀ を押す

テストトーンの出力が停止します。

5

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。



ご注意

- スピーカーの出力レベルは、テストトーンと実際の音（SP-LV）のどちらを使っても同様に調整できます。

タイムアライメントを選ぶ

TA1

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節する機能です。Initial/Custom/Auto TA/TA OFFから選べます。

1

AUDIO を押す

TA1 を選びます (→74ページ)。

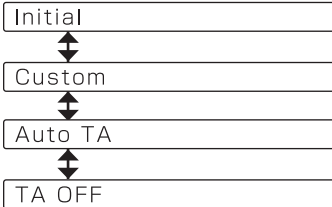
2

◀ または ▶ を押す

タイムアライメントが選べます。



ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



タイムアライメントの選び方の基準

- 以下を参考に選んでください。
 - ・ Initial：工場出荷時に設定されたタイムアライメントの初期値です。
 - ・ Custom：お好みに合わせて調節できるタイムアライメントです。
 - ・ Auto TA：オートタイムアライメント&イコライジング（オート TA&EQ 設定）機能を使って設定したタイムアライメントです。オート TA&EQ 設定を行ったあとは、自動でこの設定になります。
 - ・ TA OFF：タイムアライメントをOFFにします。



ご注意

- オート TA&EQ 設定 (→84ページ) を行っていない場合は、Auto TAは選べません。

3

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

タイムアライメントを調節する

TA2

各スピーカーから乗車位置までの距離を設定することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節できます。**POSI** (→92ページ) による乗車位置の設定で自動的に調節されますが、タイムアライメントではさらに細かく調節できます。



タイムアライメントを調節する前に

- POSI (→92ページ) で、Front RightかFront Leftを選んでください。それ以外の乗車位置を選んでいると、タイムアライメントは調節できません。
- TA 1で、TA OFF以外を選んでください。TA OFFの場合、タイムアライメントは調節できません。

1

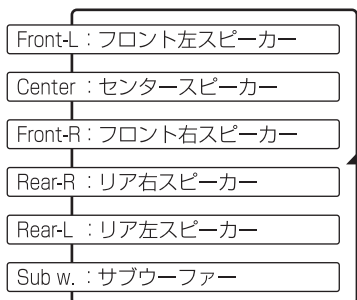
AUDIO を押す

TA2を選びます (→74ページ)。

2

◀ または ▶ を押す

調節したいスピーカーを選びます。ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



ご注意

- サブウーファーを接続したときは、SIZE (→75ページ) でSub w.を必ずONにしてください。OFFの場合は、Sub w.には切り換わりません。

3

▲ または ▼ を押す

距離が調節できます。
距離を長くするとき : ▲
距離を短くするとき : ▼



調節できる範囲は0.0 cm ~ 500.0 cm です。



知っている则便利

- 調節した内容は、Custom (→89ページ) に登録されます。

4

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

センターなしで5.1chの サラウンド感を再現する

D-MIX

センタースピーカーがないシステムでも、ダウンミックス機能を使うことで5.1chのサラウンド成分を損なうことなく再生できます。

1 ? ダウンミックスとは

5.1 chの音声は、左/右/センター/左サラウンド/右サラウンド/サブウーファーの成分で構成されています。ダウンミックスは、左サラウンド/右サラウンド/センターの成分を左と右の成分に加えた音を作ります。設定は、Lo/RoとLt/Rtの2種類です。それぞれで、左サラウンドと右サラウンドの加え方が異なります。

・Lo/Ro：左サラウンドと右サラウンドの成分をモノラルにして、左と右のチャンネルに均等に振り分けます。

・Lt/Rt：左サラウンドと右サラウンドの成分をステレオのまま、左と右のチャンネルに振り分けます。

なお、サブウーファーの成分はダウンミックスには影響しません。

1 AUDIO を押す

D-MIXを選びます (⇒74ページ)。

2 ◀または▶ を押す

ボタンを押すごとに、Lo/RoとLt/Rtが切り換わります。

Lo/Roを選ぶとき： ◀

Lt/Rtを選ぶとき： ▶



3 BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

📌 ご注意

●DVDオーディオには、ダウンミックスを禁止しているものがあります。その場合は、ダウンミックスを設定しても効果はありません。

小さな音を 聞きやすくする

DRC

ダイナミックレンジコントロールを使うと、音量を下げて再生するときでも、小さな音を聞きやすくすることができます。

1 ? ダイナミックレンジコントロールとは

ダイナミックレンジとは、一番大きな音と一番小さな音との幅のことです。ダイナミックレンジコントロールは、この幅を圧縮することで小さな音を聞きやすくします。

1 AUDIO を押す

DRCを選びます (⇒74ページ)。

📌 ご注意

●DVDディスクを再生しているとき以外は、DRCには切り換わりません。

2 ▲ を押す

ダイナミックレンジコントロールがONになります。



OFFにするには、▼を押します。

3 BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

📌 ご注意

●ダイナミックレンジコントロールの効果が見られるのは、ドルビーデジタル音声だけです。

オリジナルの音質で 聞く

DIRECT

DIRECTを使うと、音と音場・音質の調節を加えない状態で原音のまま再生します。調節の効果を確かめるときに使用してください。

1

AUDIO を押す

DIRECT を選びます (⇒74ページ)。

2

▲ を押す

DIRECTがONになります。



▼ を押すと、OFFになります。

3

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

各ソースの音量を そろえる

SLA

ソースを切り換えたときに、ソースごとの音量が違ふことがあります。SLAを使うと、FMの音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。



SLAとは

SLAは、Source Level Adjuster (ソースレベルアジャスター) の略です。

1

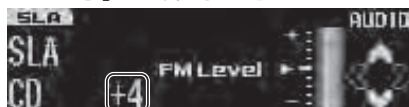
AUDIO を長く押す

SLAが表示されます。

2

▲ または **▼** を押す

SLAのレベルを調節できます。レベルを大きくするとき：**▲** レベルを小さくするとき：**▼**



調節できる範囲は-4 ~ +4です。

3

BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。



ご注意

●DIRECTがONのときは、VOLUMEまたは**□**による音量調節／**□□**PL II 1／**□□**PL II 2のみが有効です。このほかの音と音場・音質の調節はできません。



ご注意

●AM／テレビ／CD／MD／DVD／iPod／AUX (外部機器)／エクスターナルのそれぞれの音量差を調節できます。なお、内蔵CDとマルチCD／エクスターナル1とエクスターナル2／AMと交通情報 (⇒103ページ) はそれぞれ同じ設定になります。

音響特性を最適に自動補正する前に

音響特性を最適に自動補正する（オート TA&EQ 設定）（⇒84ページ）前に、必ずお読みください。

音響特性の最適な自動補正とは

車内空間には、その形状や材質、スピーカーの取付位置、聞く位置など、さまざまな制約があります。このため、ホームオーディオに比べて音響特性が大きく乱れています。この乱れを補正するには一般的に、イコライザーなどを使用します。また、音響特性を最適にする場合は、音響測定器などの道具や音質調節の熟練した技術が必要です。

音響特性を最適に自動補正するために、本機はオート TA&EQ 設定という機能を備えています。

オート TA&EQ 設定を使うと、ユーザーが専用のマイクを所定の位置に取り付けるだけで、複雑で難しい音響調節を「DEQ-P9」が自動で行います。

オート TA&EQ 設定のうち、車室内の音響特性を乱れが少なく滑らかな状態に最適化するのがオート EQです。また、各スピーカーから乗車位置までの距離を測定し、音声の到達時間を補正するのがAuto TAです。オート TAとオートEQによって、それぞれの車にとって最良の音響特性を手軽に実現できます。



警告

走行中にオート TA&EQ 設定を行わない



自動車が行進中にオート TA&EQ 設定を行わないでください。オート TA&EQ 設定は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因となることがあります。

スピーカーの破損を防止するために

次の状態でオート TA&EQ 設定を行うと、スピーカーが破損することがあります。オート TA&EQ 設定を行う前に、よく確認してください。

- スピーカーの接続を誤っている。
(例：サブウーファー出力にリアスピーカーを接続している場合)
- スピーカーの耐入力を超える出力のパワーアンプを接続している。

オート TA&EQ 設定を行う前に必ずしておくこと

オート TA&EQ 設定を効果的に行うために、いくつかの準備が必要です。以下を参照して、正しく準備してください。

- なるべく静かな場所に車を停車する。

- 車のエンジン/エアコン/ヒーターをOFFにする。エアコンやヒーターのファンの騒音によって、オート TA&EQ 設定が実行できないことがあります。
- 携帯電話や車載電話の電源を切る。または、車の外に持ち出す。
- 「DEQ-P9」に付属の音響特性測定用マイクを用意する。それ以外のマイクでは、音響特性が正しく測定されません。
- フロントスピーカーを接続する。
- フロントスピーカーのミュートを解除する。
- 乗車位置 (POS) を設定する（⇒92ページ）。乗車位置をFront RightまたはFront Left以外に設定したときは、オート TA&EQ 設定を始めるとして強制的にFront Rightに設定されます。
- 入力レベルコントロール付きのパワーアンプを接続している場合は、入力レベルを推奨位置に合わせる。
- ローパスフィルター付きのパワーアンプを接続している場合は、ローパスフィルターをOFFにする。
- ローパスフィルター付きのパワードサブウーファーを接続している場合は、ローパスフィルターのカットオフ周波数を最も高い値に設定する。



オート TA&EQ 設定で変更される設定

- オート TA&EQ 設定を行うと、音と音場・音質の設定が次のように変更されます。
 - ・FAD/BAL（⇒74ページ）：初期設定に戻る
 - ・P.EQ1（⇒89ページ）とP.EQ2（⇒90ページ）：Flatに設定される。
 - ・POS1（⇒92ページ）：Front Rightに設定される（Front Leftに設定していた場合は、Front Leftのまま）。



ご注意

- 再度オート TA&EQ 設定を行うと、前回の調節内容は消去されます。
- オート TA&EQ 設定で測定されたタイムアライメントの値は、コンピューターが算出した正確な遅延時間に基づくものです。次のような場合に実際の距離と異なることがありますが、そのままご使用ください。
 - ・車室内の反射音が直接音より強く、かつ遅延を生じている。
 - ・パワードサブウーファーや外部アンプのローパスフィルターの影響により、低音に遅延が生じている。

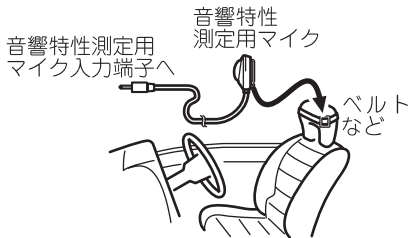
音響特性を最適に自動補正する

オート TA&EQ 設定

音響特性の自動補正を始める前に、「音響特性を最適に自動補正する前に」(→83ページ)をよく読んで、準備をしてください。

1 音響特性測定用マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に「DEQ-P9」付属の音響特性測定用マイクを前向きに固定します。

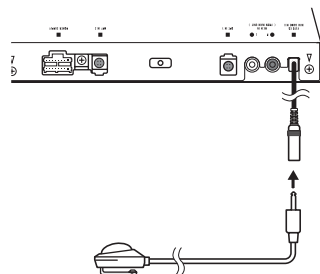


📌 ご注意

- 音響特性測定用マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定に時間がかかったりして、車のバッテリーが上がる恐れがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。音響特性測定用マイクをセットする位置により、オート TA&EQ 設定の調節内容が変化します。助手席にセットすることもできます。

2 音響特性測定用マイクを「DEQ-P9」に接続する

音響特性測定用マイクを、「DEQ-P9」のマイク入力端子に接続します。



📌 ご注意

- 音響特性測定用マイクを確実に挿入して、オート TA&EQ 設定を行ってください。「DEQ-P9」に音響特性測定用マイクが確実に挿入されていない状態でオート TA&EQ 設定を行うと、エラーメッセージが表示されます。

3 SRC を長く押す

本機の電源がOFFになります。

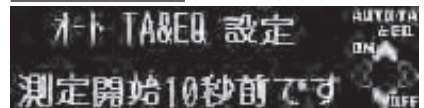
4 AUDIO を長く押す

オート TA&EQ が表示されます。



5 ▲ を押す

オート TA&EQ 設定が始まります。



中止するには、▼を押します。

📌 ご注意

- オート TA&EQ 設定が測定を始めてから終了するまでの時間は約8分です。ただし、周囲の騒音状態や車両形状、スピーカーの数などにより測定時間は変わります。

6 車外に出る

「ピッ」という音で10秒のカウントダウンが始まります。10秒以内に車外に出て、ドアを閉めてください。

知っている则便利

- オート TA&EQ 設定を途中でやめるときは、**BAND** を押してください。オート TA&EQ 設定が中止されて、電源がOFFになります。

7 測定が開始される

測定音（ノイズ）が各スピーカーから出力され、測定が始まります。

8 オート TA&EQ 設定が自動で終了する

計測が終わると、オート TA&EQ 設定は自動で終了します。



オート TA&EQ 設定が正常に終了すると、「設定を終了しました」と表示されます。

9 音響特性測定用マイクを取り外す

音響特性測定用マイクは、グローブボックスなどに入れて、大切に保管してください。


ご注意


- 音響特性測定用マイクを直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形や変色、故障の原因になります。

10 **BAND** を押す

オート TA&EQ 設定が解除されます。

別売DSPの 音場・音質の調節

別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を組み合わせると、「DEQ-P9」の音場・音質の調節機能を操作できます。これらは、 (DSP) で切り換えて設定します。

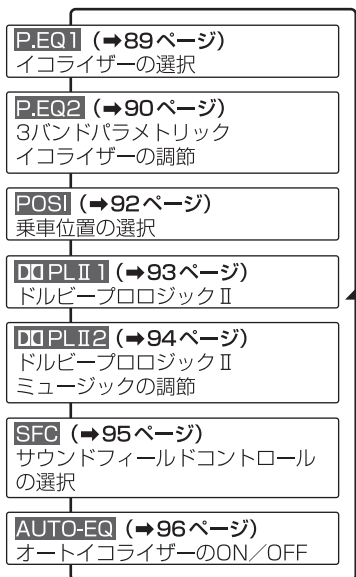
 (DSP) で機能を切り換える	88
音質を手軽に調節する	89
3バンドパラメトリックイコライザーを 細かく調節する	90
音場の中心で聞く	92
ドルビープロロジックⅡを使う	93
ドルビープロロジックⅡを 調節する (Music)	94
イメージに合った演奏会場を 再現する	95
オート TA&EQ 設定をON/OFFする	96

⊖ (DSP) で 機能を切り換える

音場・音質の調節機能は、⊖ (DSP) で切り換えてから設定します。

1 ⊖ (DSP) を押す

ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります。



知っている则便利

- ふだんの再生画面に戻るには、**BAND** を押します。



ご注意

- 約30秒間、何も操作しなかったときは自動でふだんの再生画面に戻ります。ただし、3バンドパラメトリックイコライザーを調節しているときは、自動では戻りません。
- SIZE (スピーカーサイズの設定) (→75ページ) で、CenterSP (センタースピーカー) およびRear SP (リアスピーカー) をOFFに設定しているときは、DDPLI1 およびDDPLI2には切り換わりません。
- DIRECT (ダイレクト) (→82ページ) がONのときは、VOLUMEまたは⊖による音量調節 / DDPLI1 / DDPLI2のみが有効です。このほかの音と音場・音質の調節はできません。

音質を手軽に調節する

P.EQ1

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを選ぶだけで、音質を手軽に調節できます。イコライザーカーブは、S.Bass (Super Bass) / Powerful / Natural / Vocal / Flat / Custom1 / Custom2の7種類です。

それぞれのイコライザーカーブの効果

- S.Bass (Super Bass)
低域が厚みを持ち、迫力ある重低音が響きます。
- Powerful
低域と高域が厚みを持ち、アップテンポな曲がメリハリよく聞こえます。
- Natural
自然なバランスで、聞き疲れしない心地よい音を再生します。
- Vocal
中高域が厚みを持ち、伸びやかなヴォーカルを際立たせます。
- Flat
音の補正をしません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えて、イコライザーの効果を確認するときに使用してください。
- Custom1
3バンドパラメトリックイコライザーで調節 (⇒90ページ) したイコライザーカーブがソースごとに登録されます。内蔵CDとマルチCD / エクスターナル1とエクスターナル2は、それぞれ同じ設定になります。
- Custom2
3バンドパラメトリックイコライザーで調節したイコライザーカーブが、全ソースに共通のカーブとして登録されます。

交通情報受信時のご注意

- 交通情報を受信しているときは、イコライザーカーブは選べません。

1 (DSP) を押す

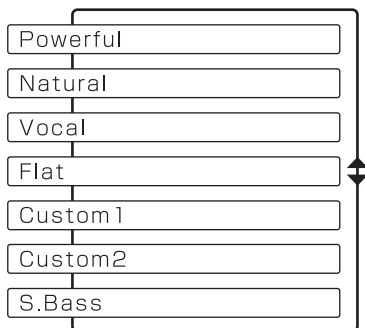
P.EQ1 を選びます (⇒88ページ)。

2 ◀ または ▶ を押す

イコライザーカーブが選べます。



ボタンを押すごと次の順序で切り換わります。



3 [BAND] を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

3バンドパラメトリックイコライザーを細かく調節する

本機は、3バンドパラメトリックイコライザーを搭載しています。この機能を使うと、スピーカーごとにバンド/中心周波数/レベル/帯域幅(Q)を細かく調節できます。

3バンドパラメトリックイコライザーとは

中心周波数/レベル/帯域幅(Q)を調節できるイコライザーのことを、パラメトリックイコライザーといいます。3バンドパラメトリックイコライザーでは、低音/中音/高音の各バンドに対してこれらを調節できます。調節は、フロント/リア/センターのそれぞれのスピーカーごとに行います。

中心周波数とは

各バンドの中心周波数は、1/3オクターブずつのステップで切り換えることができます。ただし、各バンドの中心周波数の間隔は1オクターブ未満には設定できません。

センタースピーカーの調節手順

- センタースピーカーは、音像の定位に大きな影響を及ぼします。このため、ほかのスピーカーと同時にバランスを取るのとはとても難しい作業です。次の手順で調節することをお勧めします。
 - ①2チャンネルの音声(CDなど)を再生する
 - ②センタースピーカーを除くすべてのスピーカーのバランスを取る
 - ③5.1チャンネルの音声(ドルビーデジタルやDTS)を再生する
 - ④全体のスピーカーバランスに合わせて、センタースピーカーを調節する

1 (DSP) を押す

P.EQ2を選びます(→88ページ)。

2 ◀または▶を押す

調節したい項目に切り換えます。ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



ご注意

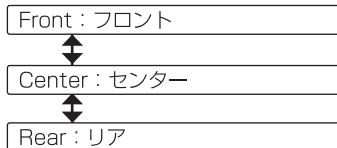
- 表示内容は工場出荷時の状態を記載しています。調節内容によって異なる場合があります。

3 ▶を押してスピーカーの項目を選び、▲または▼を押す

調節したいスピーカーを選びます。



ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



ご注意

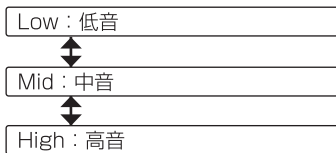
- SIZE(スピーカーサイズの設定)(→75ページ)でOFFに設定したスピーカーは選ばれません。

4 ▶を押してバンドの項目を選び、▲または▼を押す

調節したいバンドを選びます。



ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



5 ▶を押して中心周波数の項目を選び、▲または▼を押す

中心周波数を選びます。

高い周波数を選ぶとき：▲

低い周波数を選ぶとき：▼



選べる中心周波数は、40/50/63/80/100/125/160/200/250/315/400/500/630/800/1k/1.25k/1.6k/2k/2.5k/3.15k/4k/5k/6.3k/8k/10k/12.5k (Hz) です。

📌 ご注意

- 選択できる周波数は、手順4で選んだバンドによって異なります。

6 ▶を押してレベルの項目を選び、▲または▼を押す

レベルを調節します。

強めるとき：▲

弱めるとき：▼



調節できる範囲は、-6～+6です。

7 ▶を押して帯域幅の項目を選び、▲または▼を押す

カーブの傾きを選びます。



穏やかな傾き (Q: Wide) を選ぶとき：▲

急な傾き (Q: Narrow) を選ぶとき：▼

8 各スピーカーごとに、手順2～7を繰り返す

それぞれのスピーカーを同様に調節します。

9 BAND を押す。

ふだんの再生画面に戻ります。

📌 ご注意

- 3バンドパラメトリックイコライザーで調節した内容は、イコライザーカーブの Custom1とCustom2に登録されます。Custom1はソースごとに、Custom2は全ソース共通に調節内容を登録します。なお Custom1では、内蔵CDとマルチCD/エクスターナル1とエクスターナル2は、それぞれ同じ設定になります。

音場の中心で聞く

POSI

座席位置や人数に合わせて、各スピーカーから出力される音の遅延時間とレベルを自動で調節できます。この機能を使うと、どの座席位置でも自然な音響特性が得られます。

1 (DSP) を押す

POSIを選びます (→88ページ)。

2 を押す

乗車位置を選びます。

前部右座席 (Front Right) を選ぶとき：▶

前部左座席 (Front Left) を選ぶとき：◀

前部座席 (Front R&L) を選ぶとき：▲

全座席 (All seat) を選ぶとき：▼



同じボタンを押すごとに、ON/OFF します。



乗車位置の選び方の基準

- 以下を参考に選んでください。
 - ・ Front Right：右ハンドル車に運転者だけがいるとき。
 - ・ Front Left：左ハンドル車に運転者だけがいるとき。
 - ・ Front R&L：同乗者が助手席にいるとき。
 - ・ All seat：同乗者が後部座席にいるとき。

3 を押す

ふだんの再生画面に戻ります。



知っている则便利

- 選んだ乗車位置ごとに、FAD/BAL (音量バランス) (→74ページ) を登録できます。

ドルビープロロジックIIを使う

DDPL II 1

ドルビープロロジックIIは、オリジナル録音の空間情報から、立体的なサラウンド空間を作り出す機能です。この機能を使うと、2チャンネルの音声を5.1チャンネルに拡張して再生できます。従来のドルビープロロジックに比べ、音の定位がより鮮明で音の移動も自然です。サラウンドの効果は、Movie / Music / Matrix / OFFから選べます。

ドルビープロロジックIIのON/OFFの基準

- 2チャンネルの音声で5.1チャンネルに適したSFC (Musical/Drama/Action) を選んだ場合 (→95ページ)、ドルビープロロジックIIを使うことをお勧めします。
- 2チャンネルに適したSFC (Jazz/Hall/Club) を選んだ場合 (→95ページ)、ドルビープロロジックIIをOFFにすることをお勧めします。

ドルビープロロジックIIのサラウンド効果の種類

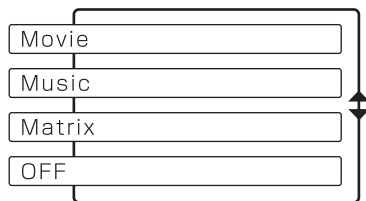
- Movie
映画再生に最適なサラウンド効果が得られます。古い映画など2チャンネルステレオで録音された音源でも、5.1チャンネル録音に迫る再生が可能です。
- Music
音楽再生に最適なサラウンド効果が得られます。2チャンネルステレオで録音されたCDなどでも、5.1チャンネル録音に迫る再生が可能です。定位感よりも包囲感が得られます。また、調節機能が用意されているので、より好みに合ったサラウンド効果が実現できます (→94ページ)。
- Matrix
FMやTVなどのステレオ放送に最適なサラウンド効果が得られます。
- OFF
ドルビープロロジックIIをOFFにします。

1 (DSP) を押す

DDPL II 1を選びます (→88ページ)。

ご注意

- SIZE (スピーカーサイズの設定) (→75ページ) で、センタースピーカーとリアスピーカーをOFFに設定したときは、DDPL IIには切り換わりません。



2 ◀または▶ を押す

サラウンド効果の種類を選びます。



ボタンを押すごと次の順序で切り換わります。

3 BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

ご注意

- 2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジックIIを使うと、次のような現象が起こることがあります。
 - ・センタースピーカーの設定をSmallやLargeにしている場合、センタースピーカーだけから音が出力される。
 - ・センタースピーカーを接続していない場合、音が出力されない。
- ドルビープロロジックIIは、48 kHzまでのサンプリング周波数で動作します。

ドルビープロロジックIIを調節する (Music)

DDPLI 2

ドルビープロロジックIIでMusicを選ぶと (⇒93ページ)、音楽の再生に適したサラウンド効果が得られます。より好みに合ったサラウンド効果を得るには、Musicの設定・調節機能を使用します。

Musicの設定・調節機能の種類

- Panorama (パノラマ)
フロントのステレオイメージをサラウンドスピーカーまで拡張して、包囲感を高めます。
- DIME (ディメンション)
フロントスピーカーとリアスピーカー間で、中高域だけに有効なフェーダーです。前方への定位感を制御するときに調節します。調節範囲は-3 ~ +3です。音は、+ (プラス) 側に行くとフロント側に、- (マイナス) 側に行くとリア側に移動します。
- Center W (センター幅)
センタースピーカーの音を、フロントの左右スピーカーに割り振ります。左右での定位感を制御するときに調節します。調節範囲は0 ~ 7です。0が最もセンタースピーカー寄りになり、7が最も左右スピーカー寄りになります。設定する値によって、音の割り振りが次のように変化します。
0: センタースピーカーだけで、センターの音を再生します。フロントの左右スピーカーからは、センターの音の成分は出力されません。
3: 推奨設定です。センタースピーカーとフロントスピーカーで音をバランスよく配分します。
7: センターの音をフロントの左右スピーカーに振り分けて再生します。センタースピーカーからは音は出力されません。

1 DDPLI 1 で Musicを選ぶ (⇒93ページ)

ご注意

- SIZE (スピーカーサイズの設定) (⇒75ページ) で、センタースピーカーとリアスピーカーをOFFに設定したときは、DDPLI 1には切り換わりません。

2 (DSP) を押す

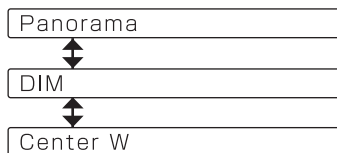
DDPLI 2 を選びます (⇒88ページ)。

3 ◀ または ▶ を押す

Musicの設定・調節機能を選びます。



ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



4 ▲ または ▼ を押す

選んだ項目を設定・調節します。

項目	設定・調節範囲
Panorama	ON / OFF
DIME	-3 ~ +3
Center W	0 ~ 7

5 BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

イメージに合った演奏会場を再現する

SFC

「DEQ-P9」は、イメージに合った演奏会場を再現するために、SFC機能を搭載しています。この機能を使うと、実際にその演奏会場にいるかのような音場を再現できます。

SFCとは

SFCは、Sound Field Control (サウンド フィールド コントロール) の略です。演奏会場で聞く音には、会場ごとに独特の雰囲気があります。会場の広さや形状、残響特性が異なるため、直接音や初期反射音、残響音の長さ、残響音の質が変化するためです。SFCの音場プログラムは、この性質を考慮して設定されています。音場プログラムは、Musical/Drama/Action/Jazz/Hall/Club/OFFから選べます。

・ Musical

音楽ソフトやミュージカル映画などに最適です。

・ Drama

幅広いサラウンド感を再現します。また、直接音もしっかり聞こえるので、セリフの多い映画などに最適です。

・ Action

躍動感やスピード感を再現します。アクションシーンの多い映画などに最適です。

・ Jazz

ジャズクラブの音場を再現します。ライブ録音の音声に最適です。

・ Hall

コンサートホールの音場を再現します。残響音の響きが豊かなので、クラシック音楽などに最適です。

・ Club

クラブの音場を再現します。残響音の響きが少ないので、ビートの効いた音楽などに最適です。

1 ② (DSP) を押す

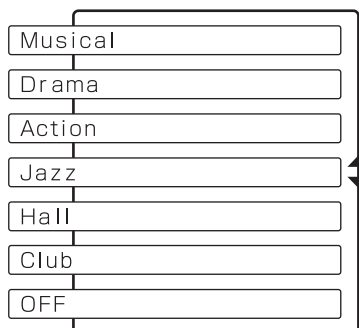
SFCを選びます (→88ページ)。

2 ◀または▶ を押す

音場プログラムが選べます。



ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



3 BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。



知っている则便利

- 2チャンネルの音声で5.1チャンネルに適したSFC (Musical/Drama/Action) を選んだ場合、ドルビープロロジックⅡ (→93ページ) を使うことをお勧めします。
- 2チャンネルに適したSFC (Jazz/Hall/Club) を選んだ場合、ドルビープロロジックⅡ (→93ページ) をOFFにすることを勧めます。

オート TA&EQ 設定を ON / OFF する

AUTO-EQ

オート TA&EQ 設定 (⇒84ページ) で調節された内容を ON / OFF できます。

1 (DSP) を押す

AUTO-EQ を選びます (⇒88ページ)。

2 ▲ を押す

Auto EQ が ON になります。



▼ を押すと、OFF になります。

ご注意

- オート TA&EQ 設定 (⇒84ページ) を行っていない場合は、ON / OFF は切り換えできません。

3 を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

便利な機能

本機には、「時計を表示する」、「交通情報を受信する」などの便利な機能が搭載されています。必要に応じてご使用ください。

聞きたい曲を直接選ぶ	98
聞きたいCDを直接選ぶ	98
聞きたい曲や放送局を 名前のリストからさがす	99
ふだんの再生画面の表示を 切り換える	100
隠れている文字を表示する	102
瞬時に音量を小さくする	102
時計を表示する	103
交通情報を受信する	103
よく使う機能を直接操作する	104
● ディスクのとき	104
● ラジオのとき	104
● テレビのとき	104
エンタテインメント	
ディスプレイを切り換える	104
IP-BUS対応製品を接続する	105
● マルチMDを接続したとき	105
● iPodアダプター/テレビ/マルチDVD/ 1枚型DVD/AVを接続したとき	105
外部機器に合わせて デジタル接続に切り換える	106

聞きたい曲を直接選ぶ

リモコンを使って、聞きたい曲を直接選べます。

1 リモコンの **[DIRECT]** を押す

曲番号の入力画面が表示されます。

2 リモコンの **[1]** ~ **[0]** を押す

聞きたい曲の番号を入力します。



知っていると便利

- リモコンの **[C]** を押すと、入力した番号を消去できます。

3 リモコンの **[DIRECT]** を押す

入力した番号の曲が再生されます。

聞きたいCDを直接選ぶ



リモコンを使って、聞きたいCDを直接選べます。

1 リモコンの **[1]** ~ **[6]** を押す

1 ~ 6枚目のCDを選ぶとき：

[1] ~ **[6]**

7 ~ 12枚目のCDを選ぶとき：

[1] ~ **[6]** を長く



CD番号



ご注意

- 曲番号の入力画面を約8秒間何も操作しないと、ふだんの再生画面に戻ります。

聞きたい曲や放送局を名前のリストからさがす

曲や放送局などの名前のリストを表示できます。聞きたい曲や放送局を名前から探すときに便利です。

1 ◀ (LIST) を押す

リストが表示されます。

ソース	表示されるリスト
CD (「CD TEXT」のみ)	曲
WMA/MP3/AAC/WAV	フォルダー 、曲
MD	グループディスク以外 グループディスク 、曲
マルチCD	CD 「CD TEXT」 、曲
ラジオ	放送局

もう一度 ◀ (LIST) を押すと、解除されます。

ⓘ ご注意

- MDのグループディスクの場合、◀ (LIST) を押すごとに表示がグループ/曲/解除の順序で切り換わります。

2 ▲ または ▼ を押す

聞きたい曲 (フォルダー、グループ、ディスク、放送局) の名前を選択します。

上の名前を選ぶとき: ▲

下の名前を選ぶとき: ▼

選択中の曲



再生中の曲。反転表示されます

ⓘ ご注意

- 図はCDの例です。他のソースでは、名前の前に付くマークが異なる場合があります。それぞれのソースで表示されるマークについては、手順1の表を参照してください。
- 曲名などが収録されていないときは、No Dataなどと表示されます。
- WMA/MP3/AAC/WAVの場合、リストは必ず「ROOT」から表示されます。
- WMA/MP3/AAC/WAVまたはMDの場合、収録ファイル数多くてリスト番号が3桁になるときは、下2桁だけが表示されます。
- 放送局名が登録されていない放送局は、周波数が表示されます。

3 ◀ または ▶ を押す

▶	CD (「CD TEXT」のみ)	曲を再生します
	WMA/MP3/AAC/WAV	フォルダーを選んでいるとき、その中身を表示します 曲を選んでいるとき、再生が始まります
	MD	グループディスク以外 グループディスク
	マルチCD	CD 「CD TEXT」対応
	ラジオ	放送を受信します

▶ を長く

▶ を長く	WMA/MP3/AAC/WAV	フォルダー内の曲を始めからすべて再生します
	マルチCD	「CD TEXT」内の曲を始めからすべて再生します
	ラジオ	受信中の放送局を選択中の番号に登録します

◀

◀	WMA/MP3/AAC/WAV	1階層上のフォルダーに戻ります
	マルチCD	「CD TEXT」 ディスクのリストを表示します

4 BAND を押す

ふだんの再生画面に戻ります。



知っている则便利

- リストを30秒間何も操作しないと、ふだんの再生画面に戻ります。

ふだんの再生画面の表示を切り換える

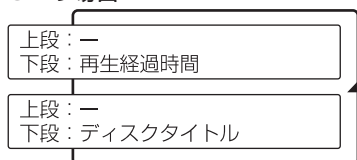
ふだんの再生画面には、再生経過時間や周波数のほか、ディスクタイトルやトラックタイトル、放送局名などを表示できます。

1

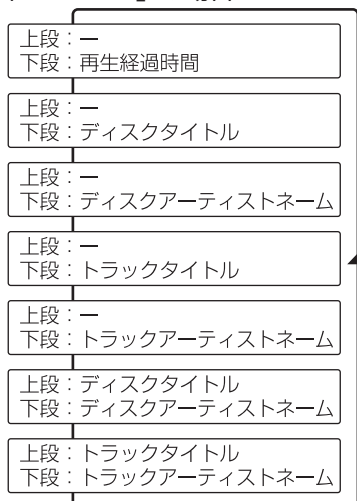
DISP を押す

表示が切り換わります。
ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。

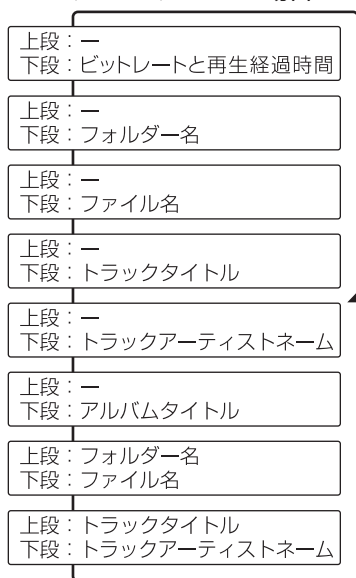
CDの場合



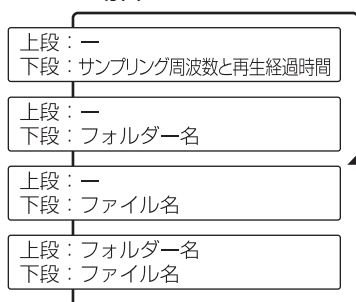
「CD TEXT」の場合



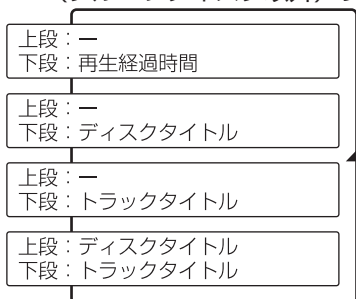
WMA/MP3/AACの場合



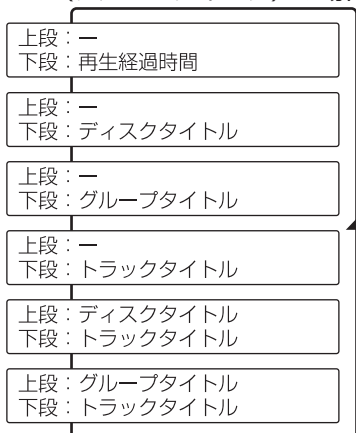
WAVの場合



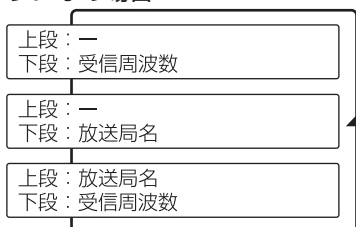
MD (グループディスク以外) の場合



MD (グループディスク) の場合



ラジオの場合



知っているとも便利

- 全角で11文字、半角で22文字まで表示できます。
- 隠れている文字はスクロールして表示できます (⇒102ページ)。
- カタカナやアルファベットだけではなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。「CD TEXT」やMDなどに漢字などの文字情報が収録されている場合でも、そのまま表示できます。



ご注意

- 曲名などが収録されていないCDで表示を切り換えると、No track nameなどと表示されます。
- WMAファイルをエンコードしたWindows Media Playerのバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- VBR (可変ビットレート) で記録されたMP3ファイルを再生中に、表示をビットレートに切り換えた場合はVBRと表示されます。
- VBR (可変ビットレート) で記録されたWMAファイルを再生中に、表示をビットレートに切り換えた場合は平均ビットレートが表示されます。
- MP3ファイルやAACファイルをライティングしたiTunesのバージョンによっては、ファイル名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 長時間録音されたトラックタイトルの先頭には、:LPがあらかじめ入力されている場合があります。ただし、本機ではMDの録音方式にかかわらず、トラックタイトル先頭の:LPが表示されません。

隠れている文字を表示する

長いタイトルは、スクロールして表示できます。

1

DISP を長く押す

タイトルがスクロールします。



瞬時に音量を小さくする

アッテネーターを使うと、車内の会話や車外の音が聞き取りにくいときなどに、瞬時に音量を小さくできます。

1

リモコンの **ATT** を押す

音量が1/10になります (→13ページ)。

もう一度 **ATT** を押すと、解除されます。



アッテネーターがONのときに点滅します



知っている则便利

- 初期設定で連続スクロール機能をONにした場合、タイトルが繰り返しスクロールされます。タイトルの最初を表示させて、再びスクロールさせたいときは、**DISP** を長く押してください。連続スクロールについては (→114ページ)。

時計を表示する


本機の電源がONのとき、または電源がOFFでフィーチャーデモ (➡18、113ページ) を解除しているときに、時計を表示できます。

1

 を長く押す

時計が表示されます。



もう一度  を長く押すと、時計表示が解除されます。


交通情報を受信する

高速道路などで放送されている交通情報ラジオを、瞬時に受信できます。この機能は、電源がOFF のときでも、どのソースからでも操作可能なので、情報を逃さず受信できます。

1

 を押す

交通情報を受信します。

受信をやめるときは、 をもう一度押します。交通情報を受信する前の状態に戻ります。

2

◀ または ▶ を押す

周波数が切り換わります。

1 629 kHzにするととき：▶

1 620 kHzにするととき：◀



受信周波数



ご注意

- 時計を合わせるには (➡109ページ)。
- 本機の電源がONで時計表示をしているとき、ほかの操作をすると、時計表示は一度解除されます。この場合、約6秒後に時計表示に戻ります。



知っていると便利

- 交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定できます。



ご注意

- 交通情報を受信すると、SFC (➡71、95ページ) がOFFに、イコライザーカーブが交通情報用になります。交通情報の受信をやめると、SFCおよびイコライザーカーブは元の状態に戻ります。

よく使う機能を 直接操作する

リモコンの **DF** を押すと、よく使う機能をソースごとに直接操作できます。ディスクのときは再生の一時停止に、ラジオのときはBSMの開始に、テレビのときはBSSMの開始になります。

ディスクのとき

1

DF を押す

再生が一時停止されます (→36ページ)。

もう一度 **DF** を押すと、一時停止が解除されます。

ラジオのとき

1

DF を長く押す

BSM (→44ページ) が始まります。

もう一度 **DF** を押すと、途中で解除されます。

テレビのとき

1

DF を長く押す

BSSMが始まります。

もう一度 **DF** を押すと、途中で解除されます。

エンタテインメント ディスプレイを切り換える

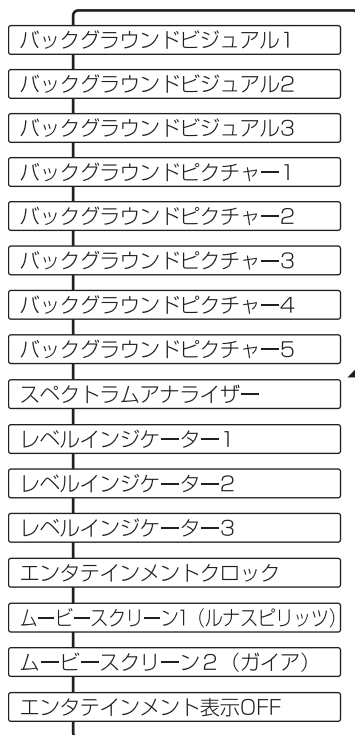
各ソースを聞いているときにエンタテインメントディスプレイを切り換えて、いろいろな表示が楽しめます。

1

ENTERTAINMENT を押す

表示が切り換わります。

ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



IP-BUS対応製品を接続する

本機に、IP-BUS対応のパイオニア製品を接続できます。接続した製品によって、操作のしかたが異なります。以下を参照して、正しく操作してください。

マルチMDを接続したとき

本機は、マルチMD（例：「MD-P100 II」）をエクスターナル（➡22ページ）として操作できます。操作のしかたは、マルチMDの取扱説明書の「メインユニット③」を参照してください。

iPodアダプター／テレビ／マルチDVD／1枚型DVD／AVを接続したとき

操作のしかたは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

組み合わせ例

ソース	製品の型番
iPodアダプター	「CD-IB10 II」
テレビ	「AVX-P7」
マルチDVD	「XDV-P9 II」
1枚型DVD	「SDV-P7」
AV	「AVX-P7」

これらの製品の取扱説明書では、本機以外の製品を例にして操作を説明している場合があります。その製品と対応しているボタンで操作してください。

1枚型DVDまたはマルチDVDを接続したときは、次の操作がそれぞれの取扱説明書と異なります。

早送り／早戻し

DVDを再生しているとき：

◀または▶を押す

ビデオCDまたはCDを再生しているとき：

◀または▶を長く押す

チャプター／トラックを進める／戻す
DVDを再生しているとき：

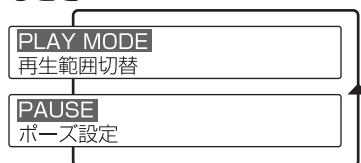
◀または▶を長く押す

ビデオCDまたはCDを再生しているとき：

◀または▶を押す

FUNC で機能を切り換える

DVDまたはビデオCDを再生しているとき：



CDを再生しているとき：



ご注意

- ITS PLAYは、マルチDVDでCDを再生している場合にのみ表示されます。

ディスクタイトル入力、ITS機能
マルチDVDでCDを再生している場合に操作できます。操作方法はマルチCDと同じです（➡38～41ページ）。

外部機器に合わせて デジタル接続に切り換える

パイオニア製のナビゲーションユニット（「AVIC-DRV05」など）と5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を光ケーブルで接続して、本機と組み合わせて使用できます。この場合、ナビゲーションユニットで選択したソースの音声を、AUX（外部機器）として出力できます。ソースの種類によって、デジタル／アナログを切り換えてください。

別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を本機に接続しているときだけ操作できます。



デジタル／アナログの切り換えの基準

- デジタルとアナログは、次の基準で切り換えてください。
 - デジタル設定
 - ・ ナビゲーションユニットの内蔵プレーヤーを選択しているとき
 - アナログ設定
 - ・ ナビゲーションユニットのテレビ、ミュージックサーバーを選択したとき
 - ・ 本機にナビゲーションユニットを接続しないとき

1

[SRC] を押す

ソースをAUXにします（⇒22ページ）。

2

[BAND] を押す

ボタン押すごとに、DIGITALとANALOGが切り換わります。



初期設定

時計などふだんあまり変更する必要がない機能の設定は、初期設定として用意しています。

初期設定を切り換える	108
時計を合わせる	109
外部機器（AUX）の音声を 聞けるようにする	110
●外部機器設定をONにする	110
●外部機器の名称を入力／表示する	110
夜間の画面の明るさを切り換える	111
ディスプレイの明るさを調整する	111
RCA端子から出力される信号を 選ぶ	112
音の歪みを補正する	112
ミュート時の音量を設定する	113
フィーチャーデモをON／OFFする	113
リバースモードをON／OFFする	114
タイトルなどのスクロール方法を 切り換える	114
オーディオ設定をリセットする	115

初期設定を切り換える

電源OFFのときに、**FUNC** を押して切り換えます。

1

SRC を長く押す

電源がOFFになります (→22ページ)。

2

FUNC を長く押す

初期設定に切り換わります。

解除するには、**BAND** を押します。

3

FUNC を押す

ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります。



ご注意

- 別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続しているときは、RCA外部出力には切り換わりません。
- AUDIO RESETには、別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続しているときだけ切り換わります。

時計を合わせる

CLOCK

時計を表示するために、時計を合わせておきます。

1 初期設定の画面を表示しておく (⇒108ページ)

2 **CLOCK** を押す

CLOCK を選びます (⇒108ページ)。

3 ◀ / ▶ / ▲ / ▼ を押す

時と分を切り換えるとき： ◀ または ▶
時刻を進めるとき： ▲
時刻を戻すとき： ▼



4 **BAND** を押す

電源OFFの状態に戻ります。

ご注意

- 時または分を調節すると、0秒からカウントが始まります。

外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする

AUX

本機にポータブル音楽再生機器やVTRなどの外部機器を接続して、その音声を聞くことができます。また、外部機器名称を入力して表示できます。

外部機器を接続するには

- 本機に外部機器を接続するには、別売のRCA/IP-BUSインターコネクター「CD-RB20」または「CD-RB10」が必要です。また、外部機器はRCA出力端子を備えている必要があります。詳しくは、RCA/IP-BUSインターコネクターの説明書をご覧ください。

外部機器設定をONにする

1 初期設定の画面を表示しておく (→108ページ)

2 **FUNC** を押す

AUXを選びます (→108ページ)。

3 ▲を押す

外部機器設定がONになります。



▼を押すと、OFFになります。

4 **BAND** を押す

電源OFFの状態に戻ります。

外部機器の名称を入力／表示する

1 **SRC** を押す

ソースをAUXにします (→22ページ)。



2 **FUNC** を長く押す

TITLE INPUTに切り換わります。



3 CDタイトル入力の
手順3～5の操作をする

同様の操作で外部機器の名称を入力します (→40ページ)。

AUXの代わりに、入力した名称が表示されます (図はDATと入力した場合の例)。



ご注意

- 入力できる文字は、最大8文字です。

4 **BAND** を押す

ふだんの再生画面に戻ります。

夜間の画面の明るさを切り換える

DIM

周車のライトのON / OFFと連動して、画面の明るさを自動で切り換えることができます。周囲が暗くなったときの画面のまぶしさが抑えられます。

1 初期設定の画面を表示しておく (→108ページ)

2 **[FUNC]** を押す

DIM を選びます (→108ページ)。

3 **▲** を押す

ディマー設定がONになります。



▼ を押すと、OFFになります。

4 **[BAND]** を押す

電源OFFの状態に戻ります。

ディスプレイの明るさを調整する

BRIGHT

ディスプレイの明るさを調整できます。

1 初期設定の画面を表示しておく (→108ページ)

2 **[FUNC]** を押す

BRIGHT を選びます (→108ページ)。

3 **◀** または **▶** を押す

明るくするとき：▶

暗くするとき：◀



注意

- 調整範囲は0～15です。ただし、ディマー設定をONにして車のライトを点灯している場合は、輝度調整の範囲は0～10になります。

4 **[BAND]** を押す

電源OFFの状態に戻ります。

RCA端子から出力される信号を選ぶ

RCA

本機のRCA端子に外部アンプを接続できます。外部アンプに接続するスピーカーの種類に合わせてこの設定を切り換えてください。

別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を本機に接続しているときは操作できません。

1 初期設定の画面を表示しておく (→108ページ)

2 **FUNC** を押す

RCAを選びます (→108ページ)。

3 ◀または▶ を押す

リアスピーカー (Rear) を接続するとき : ▶
サブウーファー (S/W) を接続するとき : ◀



📌 ご注意

- Rearに設定したときは、サブウーファーの調節 (→55~57ページ) はできません。

4 **BAND** を押す

電源OFFの状態に戻ります。

音の歪みを補正する

D.ATT

イコライザーカーブの設定により、レベルを高く設定した周波数の音域が歪むことがあります。デジタルATT(アッテネーター)を使うと、この音の歪みを抑えることができます。

📝 デジタルATT設定の基準

イコライザーカーブを設定して音が歪んだように感じたときは、デジタルアッテネーターの設定をLowに切り換えてください。出荷時はHighに設定されています。

1 初期設定の画面を表示しておく (→108ページ)

2 **FUNC** を押す

D.ATTを選びます (→108ページ)。

3 ◀または▶ を押す

Highを選ぶとき : ▶
Lowを選ぶとき : ◀



4 **BAND** を押す

電源OFFの状態に戻ります。

ミュート時の音量を設定する

MUTE

ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取ったときの音量を設定できます。

1 ミュート時の音量

●ミュート機能のあるパイオニア製ナビゲーションシステムと本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っているときだけ、ミュート機能が働きます。このときの音量は、次のとおりです。

- ・ Mute : 音量 "0"
- ・ 10dB ATT : もとの音量の約1/3
- ・ 20dB ATT : もとの音量の約1/10

1 初期設定の画面を表示しておく (→108ページ)

2 **[FUNC]** を押す

[MUTE] を選びます (→108ページ)。

3 ◀または▶ を押す

ミュート設定の種類が選べます。



ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります。



4 **[BAND]** を押す

電源OFFの状態に戻ります。

フィーチャーデモをON/OFFする

DEMO

フィーチャーデモをON/OFFできます。

? フィーチャーデモとは

- 各ソースや本機の機能の画面を表示して紹介する機能です。本機が電源OFFのときに表示されます。

1 初期設定の画面を表示しておく (→108ページ)

2 **[FUNC]** を押す

[DEMO] を選びます (→108ページ)。

3 ▲ を押す

デモンストレーション設定がONになります。



▼を押すと、OFFになります。

4 **[BAND]** を押す

電源OFFの状態に戻ります。

✎ 知っておくと便利

- フィーチャーデモは、本機の電源がOFFのときに **[ENTERTAINMENT]** を押してもON/OFFできます (→18ページ)。

リバーモードをON/OFFする

REV

リバーモードをON/OFFできます。



リバーモードとは

画面が自動的に反転する機能です。各ソースを聞いているときに約30秒間操作しないと反転が始まります。反転の間隔は、10秒です。

1

初期設定の画面を表示しておく (→108ページ)

2

FUNC を押す

REV を選びます (→108ページ)。

3

▲ を押す

画面反転がONになります。



▼ を押すと、OFFになります。

4

BAND を押す

電源OFFの状態に戻ります。

タイトルなどのスクロール方法を切り換える

SCROLL

連続スクロール機能をONにすると、タイトルなどを繰り返しスクロールさせることができます。一度だけスクロールさせたいときは、この機能をOFFにしてください。初期状態ではOFFになっています。

1

初期設定の画面を表示しておく (→108ページ)

2

FUNC を押す

SCROLL を選びます (→108ページ)。

3

▲ を押す

連続スクロール設定がONになります。



▼ を押すと、OFFになります。

4

BAND を押す

電源OFFの状態に戻ります。



知っていると便利

- リバーモードは、本機の電源がOFFのときに**BAND**を押してもON/OFFできます (→18ページ)。

オーディオ設定をリセットする

AUDIO RESET

オーディオ調節およびDSP調節の設定を出荷時の状態に戻すことができます。

別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を本機に接続しているときだけ操作できます。

📌 リセットされる設定

- リセットされるのは、別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続して調節できる音と音場・音質調節の設定です。ただし、以下の設定を除きます。
 - ・音の調節の音量バランス (FAD/BAL)
 - ・音の調節のダウンミックス (D-MIX)
 - ・音の調節のダイナミックレンジコントロール (DRC)
 - ・音の調節のダイレクト (DIRECT)
 - ・音の調節のソース レベル アジャスター (SLA)
 - ・音場・音質の調節の乗車位置 (POSI)
 - ・初期設定のデジタルアッテネーター (D. ATT)
 - ・初期設定のミュート (MUTE)
 - ・VOLUMEによる音量調節

1 初期設定の画面を表示しておく (→108ページ)

2 **FUNC** を押す

AUDIO RESET を選びます (→108ページ)。

3 ▲ を押す

確認の画面が表示されます。



リセットをやめるときは、**BAND** を押します。

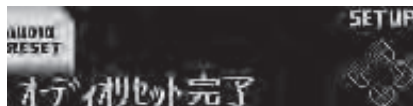
4 ▶ を押す

確認の画面が、再度、表示されます。



リセットをやめるときは、**BAND** を押します。

5 ▲ を押す



リセットが完了します。

6 **BAND** を押す

電源OFFの状態に戻ります。

初期設定

付録

CDの取り扱い方や、本機で対応しているファイル形式などについて説明しています。また、本機が正常に動作していないときの対処方法についても説明しています。

CDの正しい使いかた	118
MDの正しい使いかた	120
WMA/MP3/AAC/ WAVファイルについて	122
故障かな?と思ったら	126
こんなメッセージが表示されたら	128
保証書とアフターサービス	130
用語解説	131
おもな仕様	133

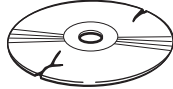
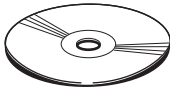
CDの正しい使いかた

使用できるCDについて

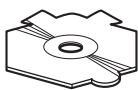
- 次のマークが付いているコンパクトディスク（光学式デジタルオーディオディスク）をご使用ください。



- 本機は音楽CD規格に準拠して設計されています。コピーコントロールCDなどのCD規格外ディスクの動作保証および性能保証は致しかねます。
- ひび、キズ、そりのあるCDは使用しないでください。



- 特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。

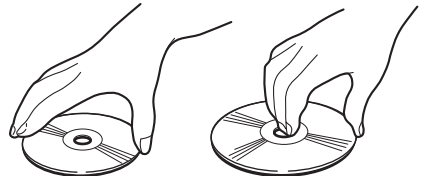


- 音楽用CDレコーダーまたはパソコンで記録したCD-RやCD-RWディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できない場合があります（詳細は、アプリケーションの発売元にお問い合わせください）。

- 直射日光や高温など車内での保管状況により、CD-RやCD-RWディスクは再生できなくなる場合があります。
- CD-R/CD-RWディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります（音楽データ（CD-DA）再生時）。
- 本機はCD-R/CD-RWディスクのトラックスキップ機能に対応しています。スキップ指定された曲は飛ばして再生されます（音楽データ（CD-DA）再生時）。
- ファイナライズされていないCD-R/CD-RWディスクには対応していません。
- CD-RWディスクは、ディスクを挿入してから再生が始まるまで、通常のCDやCD-Rディスクより時間がかかります。
- CD-R/CD-RWディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

取り扱い上のご注意

- CDは、信号記録面（虹色に光っている面）をさわらないように持ってください。



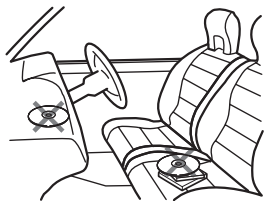
- CDにキズを付けないでください。
- CDにシールなどを張らないでください。



- 本機の機構または使用環境、ディスクの取り扱いなどにより、実際の使用で支障のない程度のキズがディスク面に付くことがあります。これは、一般的な消耗としてご理解ください。

保管上のご注意

- 直射日光の当たるところや高温になるところには、CDを保管しないでください。



- CDがそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

お手入れについて

- CDが汚れたときは、柔らかいきれいな布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。



- アナログ式レコード用のクリーナーや静電気防止剤などは使用しないでください。また、ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。



CD再生の環境について

- 走行中に、振動のショックで音飛びを起こす場合があります。
- 寒いときヒーターを入れた直後にCDの再生を始めると、本機内部のレンズやCDに露が付いて、正常に再生されないことがあります。

このようなときは、1時間ほど放置して自然に露が取れるまでお待ちください。CDに付いた露は柔らかい布でふいてください。

MDの正しい使いかた

使用できるMDについて

- 次のマークが付いているMD（ミニディスク）をご使用ください。



- 音楽用MD以外は使用しないでください。故障の原因になります。

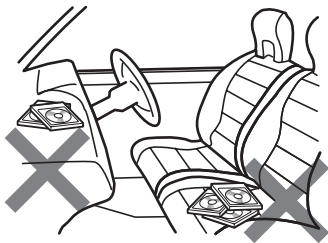
取り扱い上のご注意

- MDのシャッターを手で開けないでください。無理に開けると壊れることがあります。



保管上のご注意

- 直射日光の当たるところや高温になるところには、MDを保管しないでください。

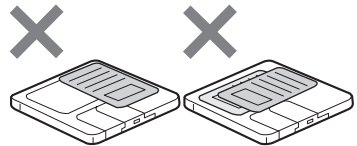


寒いときの結露について

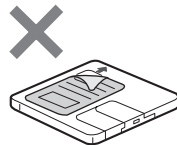
- 寒いときヒーターを入れた直後にMDの再生を始めると、本機内部のレンズやMDに露が付いて、正常に再生されないことがあります。このようなときは、1時間ほど放置して自然に露が取れるまでお待ちください。MDのカートリッジに付いた露は柔らかい布でふいてください。

ラベルについて

- MDに付属のラベルは、必ず指定の位置に張ってください。指定の位置以外に張ったり、2枚重ねて張ったりすると、MDが取り出せなくなることがあります。



- ラベルがめくれたり、浮いたりしたMDは使用しないでください。ラベルが本機の内部に引っかかり、MDが取り出せなくなります。このようなMDは新しいラベルに張り換えてからお使いください。



お手入れについて

- MDのカートリッジ表面が汚れたときは、柔らかいきれいな布で軽くふいてください。
- MDにベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。

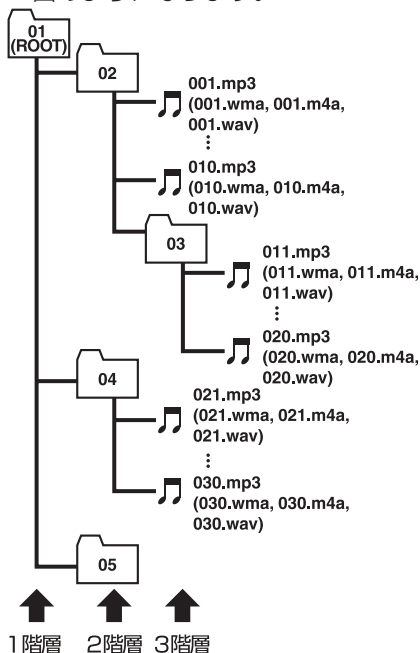


- MD用クリーニングディスクを使用するときは、クリーニングディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。
クリーニングディスクによっては、故障の原因になる場合があります。

WMA／MP3／AAC／WAVファイルについて

フォルダーとWMA／MP3／AAC／WAVファイルの関係について

- WMA／MP3／AAC・WAVファイルを収録したCD-R／CD-RW／CD-ROMのフォルダー構造は次の図のようになります。



- WMA／MP3／AAC／WAVファイルが記録されたCD-R／CD-RW／CD-ROMの再生に対応しています。ISO9660のレベル1／レベル2／拡張フォーマット (Joliet, Romeo) に準拠して記録されたディスクが再生可能です。
- マルチセッション (⇒131ページ) 方式で記録したディスクの再生に対応しています。
- パッケージライト (⇒131ページ) には対応していません。
- m3u (⇒132ページ) のプレイリストには対応していません。

- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、およびMP3 PROフォーマットには対応していません。
- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子 (.wma/.mp3/.m4a/.wav) を含めて半角64文字です。また、フォルダー名の最大表示文字数は半角64文字です。ファイル名またはフォルダー名を全角で入力した場合は32文字まで表示できます。
- 拡張フォーマット (Romeo) (⇒132ページ) に準拠して記録されたファイルの場合、先頭から64文字までの表示に対応しています。
- 再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。ただし、ライティングソフトによっては再生の順番を指定できるものもあります。
- 曲間(トラック間)にブランクがないCDを、WMA／MP3／AAC／WAVファイルとしてCD-R／CD-RW／CD-ROMに記録して再生した場合、曲間が音飛びしたように聞こえます。
- フォルダー番号は本機が割り当てます。お客様が割り当てることはできません。
- CD-R／CD-RW／CD-EXTRA／MIXED-MODE CDディスクにWMA／MP3／AAC／WAVファイルと音楽データ (CD-DA) が混在しているときは、WMA／MP3／AAC／WAVファイルと音楽データ (CD-DA) を切り換えて再生できます (⇒25ページ)。この場合、再生は一番先頭の曲から始まります。
- WMA／MP3／AAC／WAVファイルを含まないフォルダーは認識しません。フォルダーの番号を表示せず、スキップします。

- 8階層までのWMA/MP3/AAC/WAVファイルの再生に対応しています。ただし多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスクの作成時には、階層を2つ以下にすることを勧めます。
- フォルダーの合計が99個までのディスクを再生できます。

- 再生できるWMAファイルのサンプリング周波数は32/44.1/48 kHzです。
- WMAファイルは一般的に、ビットレート(➡131ページ)が高いほど音質が良くなります。本機は、CBR(固定ビットレート)で48 kbps ~ 320 kbps、VBR(可変ビットレート)で48 kbps ~ 384 kbpsのWMAファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高いビットレートで記録することをお勧めします。
- デジタル著作権保護(DRM)で保護されたファイルを再生したときは、TRK SKIPPEDと表示されてそのファイルの再生がスキップされます。
- ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護(DRM)で保護されている場合は、PROTECTと表示されてそのディスクは再生できません。
- 本機は、次の形式には対応していません。

- ・ Windows Media Audio 9 Professional (5.1 ch)
- ・ Windows Media Audio 9 Lossless (可逆圧縮)
- ・ Windows Media Audio 9 Voice

WMAとは？

- Windows Media™ Audioの略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、バージョン7以降のWindows Media Playerを使用してエンコードできます。



ご注意

- WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMAファイルをエンコードしたWindows Media Playerのバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 本機で画像データを含むWMAファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

再生できるWMAファイルについて



ご注意

- WMAファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.wma)を付けてください。
- 本機は、拡張子(.wma)が付いているファイルをWMAファイルとして再生します。雑音や故障の原因になりますので、WMAファイル以外には拡張子(.wma)を付けしないでください。
- 本機は、バージョン7/7.1/8/9/10のWindows Media Playerを使用してエンコードしたWMAファイルを再生することができます。

MP3とは？

- MPEG Audio Layer-3の略で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

再生できるMP3ファイルについて



ご注意

- MP3ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.mp3)を付けてください。
- 本機は、拡張子(.mp3)が付いているファイルをMP3ファイルとして再生します。雑音や故障の原因になりますので、MP3ファイル以外には拡張子(.mp3)を付けしないでください。

- ID3 Tag(⇒131ページ)のバージョン1.0/1.1/2.2/2.3/2.4のアルバム名/曲名/アーティスト名の表示に対応しています。なお、ID3 Tagのバージョン1.Xと2.Xが混在している場合は、2.Xが優先されます。

- 32/44.1/48 kHzのMP3ファイルを再生している場合のみ、エンファシスに対応しています。なお、再生可能なサンプリング周波数は16/22.05/24/32/44.1/48 kHzです。

- MP3ファイルは一般的に、ビットレート(⇒131ページ)が高いほど音質が良くなります。本機は、8 kbps～320 kbpsのMP3ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、128 kbps以上のビットレートで記録することをお勧めします。

AACとは？

- Advanced Audio Codingの略で、MPEG-2およびMPEG-4で使用される音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

再生できるAACファイルについて



ご注意

- AACファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.m4a)を付けてください。
- 本機は、バージョン4.1.1.54以降のiTunesを使用してエンコードされたAACファイルの再生に対応しています。
- 本機は、iTunesで作成された拡張子(.m4a)が付いているファイルをAACファイルとして再生します。雑音や故障の原因になりますので、AACファイル以外には拡張子(.m4a)を付けしないでください。
- 本機で画像データを含むAACファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

- AACファイルをエンコードしたiTunesのバージョンによっては、正しく再生されないことがあります。

- 再生可能なAACファイルのサンプリング周波数は、11.025/16/22.05/24/32/44.1/48 kHzです。

- AACファイルは一般的に、ステレオビットレートが高いほど音質が良くなります。本機は、16 kbps～320 kbpsのステレオビットレートで記録されたAACファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高いステレオビットレートで記録することをお勧めします。

- 本機は、次の形式には対応していません。

・Apple ロスレス・エンコーダ

WAVとは？

- Waveformの略で、Windows[®]での標準音声フォーマットです。

再生できるWAVファイルについて



ご注意

- WAVファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.wav)を付けてください。
- 本機は、拡張子(.wav)が付いているファイルをWAVファイルとして再生します。雑音や故障の原因になりますので、WAVファイル以外には拡張子(.wav)を付けないでください。
- 本機は、LPCM形式およびMS ADPCM形式でエンコードされたWAVファイルの再生に対応しています。
- 本機は、LPCM形式では16/22.05/24/32/44.1/48 kHz、MS ADPCM形式では22.05 kHzまたは44.1 kHzのサンプリング周波数で記録されたファイルの再生に対応しています。
- 表示されるサンプリング周波数の桁は、すべてではない場合があります。
- WAVファイルは一般的に、量子化ビット数(➡131ページ)が高いほど音質が良くなります。本機は、LPCM形式で8 bitまたは16 bit、MS ADPCM形式で4 bitの量子化ビット数での再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高い量子化ビット数で記録することをお勧めします。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。

チェックしても直らないときは

本機をリセットしてください (➡19 ページ)。


それでも直らないときは

「保証書とアフターサービス」(➡130ページ)をお読みになり、修理を依頼してください。

共通項目

症状	原因	処置
本機の電源をOFFにしても、表示が消えない。	フィーチャーデモがON になっている。	フィーチャーデモをOFFにしてください (➡18、113ページ)。
ディスプレイが反転表示する。	リバースがON になっている。	リバースモードをOFFにしてください (➡18、114ページ)。
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているか、もう一度確認してください(➡取付説明書)。
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものと同交換してください(➡取付説明書)。
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。	音量を上げてください (➡22ページ)。
	アッテネーターがON になっている。	アッテネーターを解除してください (➡102ページ)。
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください (➡54、74ページ)。
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください (➡54、74ページ)。
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください (➡54、74ページ)。
音量が自動で変化する。	ASL がON になっている。	ASL をOFFにしてください (➡72ページ)。

CD、WMA／MP3／AAC／WAV

症状	原因	処置
CDの再生中に、大きな雑音が出る。 CDの再生が途中で止まる。	CDに大きなキズやそりがある。	ほかのCD と交換してください。良くなればCD の不良です。
	CDが極端に汚れている。	CD の汚れをふき取ってください (➡119ページ)。
	CDが曇っている。 CDに水滴が付いている。	CD の曇りや水滴をふき取ってください (➡119ページ)。
	CDの裏表を逆にしてセットしている。	CD のタイトル面を上にしてセットしてください (➡25ページ)。
CDを再生できない。 CDを取り出せない。	本機がディスクを認識していない。	フロントパネルを開けた状態で、  を2秒以上押しと、ディスクが取り出せます。もう一度、入れ直してください。

MD

症 状	原 因	処 置
MDの再生中に、大きな雑音が出る。 MDの再生が途中で止まる。	MDが極端に汚れている。	MDを交換してください。
	MDが曇っている。 MDに水滴が付いている。	
	録音されていないMDを挿入した。	
	MDが正しい方向に挿入されていない。	MDを取り出し、正しい方向に挿入してください(⇒24ページ)。

ラジオ

症 状	原 因	処 置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください(⇒28ページ)。
	放送局の電波が弱い。	ほかの放送局を選局してみてください(⇒28ページ)。
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください(⇒28ページ)。

こんなメッセージが表示されたら

CD、WMA／MP3／AAC／WAVのエラー表示

CDやWMA／MP3／AAC／WAVを正常に再生できないときは、ディスプレイに以下のエラーメッセージが表示されます。

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「ERROR-11」 「ERROR-12」 「ERROR-17」 「ERROR-30」	CDが汚れている。	CDの汚れをふき取ってください(→ 119ページ)。
	CDにキズやひびがある。	CDを交換してください。
「ERROR-12」 「ERROR-15」 「ERROR-17」	CD-R／CD-RWを録音しないまま使用している。	CD-R／CD-RWは、録音してから お使いください。
「ERROR-22」 「ERROR-23」	再生できないフォーマットのCD- ROMを挿入した。	CD-ROMを交換してください。
「ERROR-10」 「ERROR-11」 「ERROR-12」 「ERROR-15」 「ERROR-17」 「ERROR-30」 「ERROR-50」 「ERROR-A0」	本機の電気系、機構系の故障が考 えられる。	車のエンジンスイッチを一度OFFに してからONにするか、CDの再生を 一度やめてから、もう一度再生して ください。
「ERROR-44」	すべての曲がトラックスキップ指 定されている。	CDを交換してください。
「NO AUDIO」	何も録音されていないCD-ROMを 挿入した。	WMA／MP3／AAC／WAV ファイル が記録されているCD-ROMと交 換してください。
「TRK SKIPPED」	デジタル著作権保護 (DRM) で 保護されたWMAファイルを再生 した。	デジタル著作権保護 (DRM) で保 護されていないファイルを再生して ください。
「PROTECT」	ディスク内のすべてのファイルが デジタル著作権保護 (DRM) で保 護されている。	ディスクを交換してください。



ご注意

- マルチCDの再生中に上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチCDの取扱説明書をご覧ください。

MDのエラー表示

MDを正常に再生できないときは、ディスプレイに以下のエラーメッセージが表示されます。

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「TEMP」	本機の内部温度に異常がある。	本機が正常に動作する温度になるま までお待ちください。
「ERROR-11」 「ERROR-12」 「ERROR-17」 「ERROR-30」	MDが汚れている。 MDにキズやひびがある。	ほかのMDと交換してください。
「ERROR-20」 「ERROR-21」	振動などが原因で曲の情報を読み 取れなかった。 MDに異常 (損傷している、TOC が入っていないなど) がある。	MDを取り出し、もう一度入れ直し てください。それでも同じメッセ ージが表示される場合は、ほかのMD と交換してください。
「ERROR-22」 「ERROR-24」	MDに異常 (損傷している、TOC が入っていないなど) がある。	ほかのMDと交換してください。
「ERROR-23」	音楽以外の情報が記録されたMD を使用した。	音楽が録音されたMDを使用してく ださい。

「ERROR-01」 「ERROR-11」 「ERROR-12」 「ERROR-17」 「ERROR-30」 「ERROR-A0」	本機の電気系、機構系の故障が考えられる。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、MDの再生を一度やめて、もう一度再生してください。
「ERROR-A1」	本機の電気系、機構系の故障が考えられる。	MDの再生を一度やめてリセットボタンを押し (➡19ページ)、もう一度再生してください。
「ERROR」	MDが何らかの原因で再生しない。	ほかのMDと交換してください。 リセットボタンを押し (➡19ページ)。
「BLANK MD」	何も録音されていないMDを挿入した。	ほかのMDと交換してください。



TOCとは

TOCはTable Of Contents (テーブル オブ コンテンツ) の略で、CDやMDなどに収録されている曲数／演奏時間／タイトルなどの情報のことです。

オート TA&EQ 設定のエラー表示

オート TA&EQ 設定が正常に実行できないときは、ディスプレイに以下のエラーメッセージが表示されます。

メッセージ	原因	処置
「マイクエラー」	音響特性測定用マイクが接続されていない。	音響特性測定用マイクを正しく確実に挿し込んでください (➡61,84ページ)。
「フロントレフトスピーカー エラー」 「フロントライトスピーカー エラー」 「フロントスピーカー エラー」 「センタースピーカー エラー」 「サブウーファー エラー」 「リアレフトスピーカー エラー」 「リアライトスピーカー エラー」 「リアスピーカー エラー」	スピーカーの計測音が、音響特性測定用マイクで拾えない。	ソースを切り換えて、スピーカーから音が出るか確認してください。音が出ない場合は、スピーカーリード線の接続を確認してください (➡取付説明書)。 音響特性測定用マイクを正しくセットしてください。
「騒音が大きすぎます」	周囲の騒音レベルが高すぎる。	なるべく静かな場所に車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。 なるべく静かな場所に車を停車し、車のエンジン／エアコン／ヒーターをOFFにしてください。 音響特性測定用マイクを正しくセットしてください。

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIは、2チャンネル信号を5.1チャンネルに拡張する機能です。CDのような通常のステレオ音楽でも立体音場効果や包囲感、定位感を実現します。



パケットライト

フロッピーディスクやハードディスクと同じように、必要なファイルを必要な時点でCD-Rなどに書き込む方式の総称です。

ビットレート

1秒当たりの情報量を表します。単位はbps (bit per second) です。この数字が大きいくほど、音楽を再現するために多くの情報を持つこととなります。このため、同じ符号化方式 (MP3など) での比較では、一般的に数字が大きいくほうが良い音となります。なおMP3とWMAのように、符号化方式が異なる場合は単純な比較はできません。

マルチセッション

マルチセッションは、データを追加できる記録方式です。CD-RやCD-RWにデータを記録するとき、その記録の始めから終わりまでをひとまとめた単位をセッションといいます。マルチセッションとは、1枚のディスクに2つ以上のセッションデータを記録する方法のことです。

リニアPCM (LPCM)

Linear Pulse Code Modulationの略で、音楽CDに用いられている信号記録方式のことです。音楽CDは、44.1 kHz/16 bitで記録されています。

量子化ビット数

音質を定義する要素の1つです。この値が大きいくほど、音質が良くなります。ただし、量子化ビット数が大きくなるほどデータサイズが大きくなるため、より多くの記憶容量が必要となります。

AAC

Advanced Audio Codingの略です。MPEG-2およびMPEG-4で使用される音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

ID3 Tag

曲の関連情報をMP3ファイルの中に埋め込む方式です。埋め込むことのできる情報には、曲名/アーティスト名/アルバム名/ジャンル/制作年/コメントなどがあります。ID3 Tag編集機能のあるソフトを利用して、内容を自由に編集できます。通常は入力できる文字数などに制限があります。

ISO9660フォーマット

CD-ROMの論理フォーマットに関する国際基準です。ISO9660フォーマットには、レベルごとに次のような制限があります。

- ・レベル1

ファイル名は8.3形式 (名前は半

角英大文字と半角数字、“_”で8文字以下、拡張子は3文字)

- ・ レベル2
ファイル名は最大31文字（区切り文字、“.”と拡張子を含む）で、各フォルダーの階層は8つ以下
- ・ 拡張フォーマット
 - Joliet :
ファイル名は最大で64文字
 - Romeo :
ファイル名は最大で128文字

m3u

プレイリストファイルの拡張子(.m3u)です。WINAMPというソフトで作成したプレイリストに付きます。

MP3 (エムピースリー)

MPEG Audio Layer-3の略で、ISO（国際標準化機構）のワーキンググループ（MPEG）が定めた音声圧縮の規格です。MP3は、音声データを元のデータの約1/10のサイズに圧縮できます。

MS ADPCM

Microsoft adaptive differential pulse code modulationの略です。米国Microsoft Corporationのマルチメディア・ソフトで使用される信号記録方式です。

VBR (バイビーアール)

Variable Bit Rate（可変ビットレート）の略です。圧縮状況に合わせてビットレートを調整することで、音質を優先した圧縮が可能になります。

WAV

Waveformの略で、Windows®での標準音声フォーマットです。

WMA (ダブルユーエムエー)

Windows Media™ Audioの略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、バージョン7以降のWindows Media Playerを使用してエンコードできます。

Microsoft、Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

おもな仕様

アンプ・オーディオ部

最大出力：	50 W × 4
定格出力：	22 W × 4
	(50 ~ 15 000 Hz、5 % THD)
13バンドイコライザー周波数：	50 Hz、80 Hz、125 Hz、 200 Hz、315 Hz、500 Hz、 800 Hz、1.25 kHz、2 kHz、 3.15 kHz、5 kHz、8 kHz、 12.5 kHz
13バンドイコライザー調整幅：	± 12 dB (2 dB/STEP)
ネットワークハイパスフィルター	
	周波数：50、63、80、100、125、160、200 Hz
	スロープ：0 dB/oct.、-6 dB/oct.、-12 dB/oct.
	調節幅：-24 dB ~ +0 dB (1 dB/STEP)
サブウーファー出力	
	周波数：50、63、80、100、125、160、200 Hz
	スロープ：-6 dB/oct.、-12 dB/oct.、-18 dB/oct.
	調節幅：-24 dB ~ +6 dB (1 dB/STEP)
	位相：NORMAL (正相)、REVERSE (逆相)
ラウドネスコンター：	10 dB (100 Hz)、6.5 dB (10 kHz)
	(ボリューム：-30 dB)
オートイコライザー (フロント/リア/サブウーファー 13バンドグラフィック)	
	周波数：50 Hz、80 Hz、125 Hz、200 Hz、315 Hz、 500 Hz、800 Hz、1.25 kHz、2 kHz、3.15 kHz、5 kHz、8 kHz、12.5 kHz
	調整幅：± 12 dB (2 dB/STEP)
負荷インピーダンス：	4 Ω (4 ~ 8 Ω使用可能)
プリアウト最大出力レベル：	2.2 V
出力インピーダンス：	1 k Ω

CDプレーヤー部

形式：	コンパクトディスクオーディオシステム
使用ディスク：	コンパクトディスク
信号フォーマット	
	サンプリング周波数：44.1 kHz
	量子化ビット数：16 ビット直線
周波数特性：	5 ~ 20 000 Hz (± 1 dB)
S/N：	94 dB (1 kHz) (IHF-A ネットワーク)
ダイナミックレンジ：	94 dB (1 kHz)
チャンネル数：	2 (ステレオ)
MP3デコーディングフォーマット：	MPEG-1 & 2 Audio Layer-3
WMAデコーディングフォーマット：	Ver 7、7.1、8、9、10 (2ch audio)
	(Windows Media Player)
AACデコーディングフォーマット：	MPEG-4 AAC (iTunes でエンコードされ たファイルのみ)
WAVシグナルフォーマット：	Linear-PCM、MS ADPCM

MDプレーヤー部

形式：	ミニディスクデジタルオーディオシステム
使用ディスク：	ミニディスク
信号フォーマット	
サンプリング周波数：	44.1 kHz
量子化ビット数：	16 ビット直線
周波数特性：	20 ~ 20 000 Hz (± 1 dB)
S/N：	90 dB (1 kHz) (IHF-A ネットワーク)
ダイナミックレンジ：	90 dB (1 kHz)
チャンネル数：	2 (ステレオ)

FMチューナー部

受信周波数帯域：	76.1 ~ 89.9 MHz
実用感度：	8 dBf (0.7 μ V/75 Ω 、モノラル、S/N：30 dB)
50 dB感度：	10 dBf (0.9 μ V/75 Ω 、モノラル)
S/N：	75 dB (IHF-A ネットワーク)
高調波歪率：	0.3 % (65 dBf 入力、1 kHz、ステレオ)
	0.05 % (65 dBf 入力、1 kHz、モノラル)
周波数特性：	30 ~ 15 000 Hz (± 3 dB)
ステレオセパレーション：	45 dB (65 dBf 入力、1 kHz)

AMチューナー部

受信周波数帯域：	522 ~ 1 629 kHz (9 kHz)
実用感度：	18 μ V (S/N：20 dB)
S/N：	67 dB (IHF-A ネットワーク)

共通部

使用電源：	DC 14.4 V (10.8 ~ 15.1 V 使用可能)
アース方式：	マイナスアース方式
最大消費電流：	10 A
外形寸法	
(取付寸法)：	178 (W) × 100 (H) × 161 (D) mm
(ノーズ寸法)：	169 (W) × 94 (H) × 19 (D) mm
質量：	2.4 kg (コードユニット含まず)

付属品

リモコン：	1
リチウム電池 (CR2025)：	1
コードユニット：	1
音響特性測定用マイク：	1
取付ネジ類：	1 式
取扱説明書：	1
取付説明書：	1
接続・取り付け時のご注意：	1
安全上のご注意：	1
保証書：	1
ご相談窓口・修理窓口のご案内：	1

パイオニア商品の修理・お取り扱い(取り付け・組み合わせなど)については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。
なお、修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな?と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

<下記窓口へのお問い合わせ時のご注意>

市外局番「0070」で始まる ☎ フリーフォン、および「0120」で始まる ☎ フリーダイヤル は、PHS、携帯電話などからはご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求窓口

カスタマーサポートセンター (全国共通フリーフォン)

受付 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～17:00 (弊社休業日は除く)

● カーオーディオ／カーナビゲーション商品

電話 ☎ **0070-800-8181-11** 【一般電話】 **03-5496-8016**

ファックス **03-3490-5718**

インターネットホームページ <http://www.pioneer.co.jp/support/index.html>

*商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品 (付属品・リモコン・取扱説明書など) のご購入について

部品受注センター

受付 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

電話 ☎ **0120-5-81095** 【一般電話】 **0538-43-1161**

ファックス ☎ **0120-5-81096**

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合

修理受付センター (沖縄県を除く全国)

受付 月曜～金曜 9:30～19:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～18:00 (弊社休業日は除く)

電話 ☎ **0120-5-81028** 【一般電話】 **03-5496-2023**

ファックス ☎ **0120-5-81029**

インターネットホームページ <http://www.pioneer.co.jp/support/repair.html>

*修理受付および進捗状況確認など(インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ/ビジュアル商品に限ります)

沖縄サービスステーション (沖縄県のみ)

受付 月曜～金曜 9:30～18:00 (土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く)

電話 【一般電話】 **098-879-1910**

ファックス **098-879-1352**

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

© パイオニア株式会社 2005

< KSNFX > < 05K00000 > < CZR2993-A >